

ほっとファミリーは養育家庭の愛称です。



養育家庭(ほっとファミリー)
体験発表集
(平成20年度)



 **東京都福祉保健局少子社会対策部**

「養育家庭(ほっとファミリー)体験発表集」の発行にあたって

都内には、様々な理由で親と一緒に暮らすことのできない子どもが約3,900人います。このような子どもたちを、実の親にかわり、家庭的な環境の下で育てているのが「里親」です。

都の里親制度は、「養育家庭」と「養子縁組里親」に大きく分かれています。とくに、養子縁組を目的としないで、子どもを家族の一員として迎えていただく里親を「養育家庭」、又は「ほっとファミリー」という愛称で呼び、普及啓発につとめています。

そして、このような子どもの状況とほっとファミリーを理解していただくため、都では各区市町村と協力し、養育家庭(ほっとファミリー)体験発表会を開催しています。

この冊子は、平成20年度に開催された養育家庭(ほっとファミリー)体験発表会において、ほっとファミリーの方々に発表していただいた内容を要約し、冊子にまとめたものです。

初めて子どもに出会ったときのことや交流中の出来事、委託後の子どもの赤ちゃん返りや問題行動などへの対応など、子育てに奮闘している様子が描かれています。また、真実告知や実子との関係など、里子を育てることゆえの悩みについても語られています。

しかし、そういったご苦労の中にも、子どもが少しずつ家庭になじんで心が通じ合っていくのが実感でき、ほっとファミリーをやっていて良かったというものや、子どもから喜びや幸せをもらっているというものなど、ほっとファミリーとして経験した子育ての素晴らしさにも触れています。

より多くの都民の皆様にお読みいただければ幸いです。

平成21年9月

東京都福祉保健局少子社会対策部育成支援課長

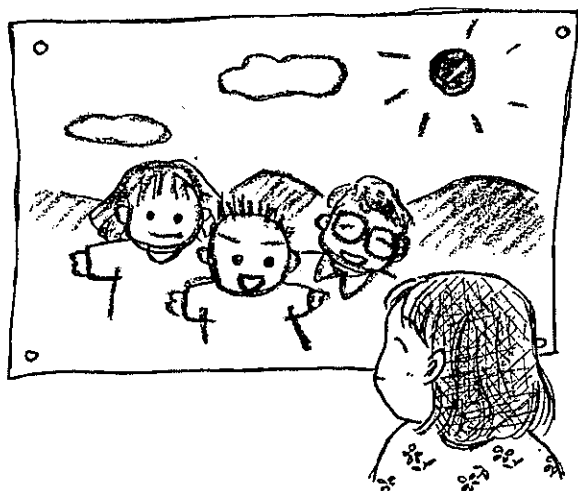
平 倉 秀 夫

目 次

1	保育園と里親	2
2	目標をもった子育て	4
3	家族記念日のケーキで迎え入れて	6
4	地域の人に支えられて	8
5	2年間で得られた経験	10
6	3人寄れば強いぞ	12
7	人から必要とされる喜び	14
8	里親こそが私のライフワーク	16
9	今、とても幸せ	18
10	お兄ちゃんとマー君	20
11	成長する姿を見る喜び	22
12	実母と一緒に育てた M ちゃんの思い出	24
13	最初の3ヶ月が肝心	26
14	光をもたらしてくれた子ども	28
15	夫と仲良しになった陽気なちびちゃん	30
16	縁を感じる里子との長いつきあい	32
17	驚いた習慣	34
18	赤ちゃんがやってきた！	36
19	一步踏み出そう	38
20	一緒に住んで、ご飯を食べて	40
21	子どもと出かける楽しみ	42
22	最初が肝心	44
23	ママと呼んでくれた日から	46
24	夫婦で仕事・夫婦で子育て	48
25	一緒に幸せになろうね！	50
26	離れていても幸せに	52

養育家庭(ほっとファミリー)

体験発表会に、ようこそ！！



この体験発表集には、26人のほっとファミリー、元里子、実子の方たちの養育体験が赤裸々につづられています。

より多くの方々に、この養育家庭制度を知っていただき、ご理解と共感を得られることを、何よりも願っています。

そのことが、ほっとファミリーの方と、そこで生活する子どもたちを支えることにつながるのです。

1 保育園と里親

【里母】

私は、里親になってまだ2年と6カ月ぐらいです。私の家族は5人でしたが、長男、次男が結婚して家を出て、長女が大学に合格して、ちょっとほっとしていたのです。私も10年以上託児所のパートで働いていたのですが、この辺で家に入っただけのんびりしようかな、でも趣味ももたないので何をしたいのかわからないなと考えていたところでした。そんなある日、里親のドラマを見たあとで、就学のため同居していた姪が「こういうのしたらどう？」と本当に簡単な気持ちで、パソコンで児童相談所・養育家庭のことを開いてくれたのが始まりです。

そして、里親登録後の研修を受け、1カ月もたたないうちにもうすぐ4歳になる女の子の紹介がありました。私のところに来る前に別の里親さんと交流を持ちましたが、心を開かずうまくいかなかったそうです。それで私が託児所で働いていたという経験を買ってくださって、電話が来たのかなと思います。

その子は、やはりすごく人見知りが強くて、私たちが施設に行くと隠れてしまい、すごい顔でにらまれ、何回行ってもだめでした。くじけそうになりましたが、なんとか乗り切ることができ、今度は委託という話になりました。ところが、私は働いているし、年齢もいっているので、うちの場合は保育園に入れないと無理だと家族で決めていました。保育園の申し込みに行ってみると里親といってもまったく優先権はなく、4月に入れるのかどうか分かりませんでした。だから委託を受けていいのかずっと不安でした。ところが、ある日保育園に入れるとの連絡がありました。その時は娘の大学が受かるよりうれしく、これで前に進めるという気持ちになりました。

そして、委託の日、Tちゃんを迎えに行ったら、「ぎゃー」と、それはそれはすごい泣き声なのです。先生から引き離し、泣いて手足をばたつかせて嫌がるTちゃんを落とさないように、抱いて車に乗せるのが精一杯でした。「Tちゃん、ほら、車が見えるよ。モノレールだよ」と言っても、「ボー」と窓の外を見ていました。今度、車から家の中に入れようとする、やはり嫌がるのです。しかたなく、Tちゃんを自転車に乗せて、夜遅くなるまで公園から公園をはしごしました。その日は本当に長い長い1日でした。

次の朝になるといつも「だっこ、だっこ」で、私が何もできないのです。そうだ、おんぶにしよう。長いひもを出しておんぶし、お洗濯や、料理を一緒にしたのです。そうすると背中から顔を出して「何しているの」とだんだん言葉数がふえ心を開いてくれるようになりました。少し慣れてくるとTちゃんは電話にすごく出たがりました。親戚からの電話で話をさせていましたが、ある時私の職場からの電話をTちゃんが勝手にとってしまって、私がいけないと話して電話を取り上げると、すごい勢いで大泣きしたのです。その時まで私は、Tちゃんを泣かせてはいけないというストレスがすごく溜まっていたのでつい「そんなにおばちゃんの言うことを聞いてくれないんなら、もうTちゃんのことを嫌いになっちゃうよ」と言ってしまったのです。その後に、何であんなことをしてしまったのだろ

うとすごく後悔の念に駆られたのですが、ある里親の先輩の方から「Aさん、でも自分のお子さんだったらそのくらい言うんじゃないの」と言われ、その一言で、少しほっとしました。

9ヵ月後、Tちゃんには妹さんがいるということを知りました。そして、聞いたときから、「やっぱり私が引き受けるしかないのかな」と、いつも2人がだぶって見えてきたのです。家族は、私の体のことを心配しましたが、最後は、家族もみんなで協力して2人を養育しようと覚悟を決めました。その後、妹のMちゃんと交流を進めているうちに、Tちゃんが通っている保育所に空きが出たという話がありました。Tちゃんのときに保育園に入るのが、とても大変だったのでこれを逃してはいけないと、年度途中でしたが、委託を早くしてほしいと児童相談所や乳児院にお願いしました。ところが、交流が少ないので、無理ではないかと言われたのです。私は、Tちゃんに妹がいると知ってから悶々とした日々を過ごし、やっと受け入れられる準備が整ってきたというのに委託は無理と言われてかちんとききました。「私も好き好んで2人も受けるなんて思っていないです。ただ、姉妹と一緒に同じ里親で育ててくれればどれだけいいかなと考えたからで、もしうちでだめなら、もっとほかのいい家庭にお願いします」とちょっと怒りぎみに話してしまったのです。そんなことはありましたが、結果的には、姉妹と一緒にさせてあげることができ、ほっとしました。

Tちゃんは、4歳近くなって委託され、私がTちゃんの産みの親ではないことはわかっており、日ごろから「おばちゃん」「おじちゃん」と呼んでもらっています。Tちゃんを自転車に乗せている時です。Tちゃんの運動会のお遊戯で生まれた月ごとに親子で前に出て、スキップしてぐるっと回ってくる場面があり、私が「Tちゃんは5月生まれだからね、間違えないでね」と言ったのです。ところが、Tちゃんがそこで「おばちゃんはTのママのことを知っている？」と聞くのです。「おばちゃんね、Tちゃんのママのことを全然知らないんだ」、「見たこともないの?」「見たこともないんだよ」、「髪の毛は長かった?短かった?」と何回もしつこく聞くのです。それから「あのね、おばちゃん、Tのママね、髪の毛長かったよ。T、ママのおへその穴からママをじっと見ていた」と言うのです。そのときは、自転車がふらつくほど動揺してしまったのですが、ああ、この子はそんなふうにならざるを得ない立場を消化しているのだと思いました。

私はこの年で里親を始める気持ちになりました。保育園があるからできるのです。里親をこの年でやるという人には、保育園や学童にどうぞという気持ちで入れてあげてほしいと今強く感じています。



2 目標をもった子育て

【里母】

私は、里親になって2年目です。私ども家族は夫と娘が3人いますので、子どもに接している時もゆとりをもっていられます。

現在、3歳10カ月のA君を委託されています。A君から見て、私は大ママと呼んでもらっています。夫は大パパで、次女をママと呼んでいます。長女と三女はお姉ちゃんと呼んでいます。次女のことをママと呼ぶのは、今、幼稚園に行っていますが、幼稚園や学校へ行きますと、お友達に「ママは、そんなおばあちゃんなの」なんていわれるのが嫌ですから、次女をママと呼ばせています。そのほか、犬3匹と猫5匹飼っていますので大変にぎやかです。

今、A君は幼稚園の年少組ですが、幼稚園でもお友達とか先生に、とっても人気があります。特に女の子に人気があり、毎日のようにラブレターをもらってきます。「すごいね、たまにはあなたも書いてあげないとね」というと、面倒くさがりやなのか照れているのか、一遍に10枚ぐらいばつと書いて持って行きます。

この間、幼稚園のお母さん方との集まりがありまして、そのときに長女と三女が出席しましたが、長女が自己紹介のときに、「私はママ1号です」って言ったそうです。そしたら、その次に三女はお姉ちゃんがママ1号なら、「私はママ3号」ということで、「ママ3号です」と言ったそうです。そうしましたら、幼稚園のお母さん方から「いつも幼稚園の行事に参加しているのはママ2号なのね」と言ってもらえました。お母さん方にも里親ということを知ってほしいと思っています。

私は、市の広報紙で里親制度を知りました。3人の娘たちに子育ての経験をさせたいなという思いがありまして、それで娘たちに相談したところ、賛成してくれました。丁度、近くの公民館で養育家庭体験発表会がありましたので、娘たちと参加し、今日のように体験談を聞きました。その時のお話は、女の子を育てられていて、とってもかわいいんですよというお話で、聞いている私たちまでかわいさが身にしみて感じられました。すぐに、家族と相談しまして、里親登録をしました。

間もなくして、当時、2歳3カ月の男の子を紹介していただきました。児童相談所の方々と乳児院で面会しました。すごくかわいかったのですが、最初「だめだめ」と言いながら、ちらっとしか顔を見せてくれなくて残念でした。

翌日から、毎日、会いに行きましたが、初めはとても慣れにくい子でした。大泣きされたり、「お母さんなんか嫌いだ、あっちへ行け」って言われたりもしました。どうしていいかわからず、泣くA君を抱いて園内で、外に行く車を見せながら、「ほら、パトカーが来たよ、ほら救急車が来たよ、バイクだよ」なんて言いながら遊んでいるうちに、男の子ですから、非常に車に興味があったらしくて、そのまま機嫌が直りました。その後の交流では、A君に会うと、すぐに外へ出ました。いろいろ遊んでから部屋に戻りまして、おもちゃや絵本を見せながら過ごしました。一ヶ月くらい、乳児院で面会し、その後に自宅へ外出してもよいと言われ、我が家へ連れて行き、一緒に食事したりして過ごしました。その後、外出から外泊となり、ようやく

A君は我が家へ来ました。

A君を迎えるとき家族で話し合いをし、1年間の目標を決めました。1つは、おむつを早期にとるということで、トイレでうまくできると家族全員で拍手をしました。拍手が心地良かったんでしょうね。まもなくおむつはとれました。2つ目は、健康を目標にしました。A君は耳鼻科や皮膚科に通院していましたので、夫と相談し、庭に鉄棒を作り、そこにぶらさがったりして体力作りに励みました。夫は柔道をしますのでA君も一緒にやります。3回に1回は夫が負けてあげますので、A君は強くなったつもりでいます。受け身がうまくなりA君の体力もついてきました。我が家では、毎夕食後1時間のウォーキングをしていましたので、A君にも参加してもらいましたが、何と、2歳7ヶ月のA君も歩き通すことができました。おかげでA君は、幼稚園に上がるまで、ほとんど病院に行かず日増しに体力がついてきました。

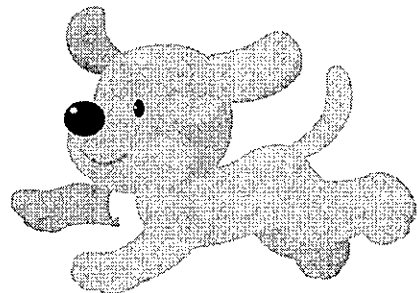
3つ目は、毎日絵本を読んであげようという目標を立てました。昼寝のときなど、絵本を読み聞かせました。1回に2、3冊の絵本を読みますが、その影響かどうかわかりませんが言葉が非常に達者になり、顔の表情も大変豊かなように思います。

A君は家に来た当時は、トイレまでついてくるなど何でも一緒にやりたがりだったので、洗濯物を一緒にたたみましたら、タオルや自分の洋服などは自分でたたむことができるようになりました。最近、タオルを片腕に巻いてきますので、「何で」と聞きますとウルトラマンになったようで、すごく強くなった気持ちでいるみたいです。「自分のことは自分で」という合言葉を使って歯磨きやお風呂での洗髪などをA君自身にやらせて、最後に大人がみています。

A君を育ててみて、すごく感心したのは、2歳10カ月で100ピースのパズルをつくるなど子どもにはすごい能力があることを知りました。最近、トランプに興味があって、神経衰弱をしています。私は全くかないません。私の倍も取ります。子どもというのは、日に日に脳も身体も伸びているということを実感しました。

娘たちを育てていた時、私は仕事と家事に負われていて、子どもたちの顔色もろくに見てあげられなかったと反省しています。子どもはしっかり向き合って育てることの大切さを、A君を通じて今さらながら学んでいます。

これからも、児童相談所や里親の会の皆様にご指導をいただきながら、家族全員でA君を支えていくつもりでおります。



3 家族記念日のケーキで迎え入れて

【里母】

私は、30年間保育士をしておりました。実子に恵まれず、自分の年齢が50歳ちかくなってきたときに、定年までのあと10年間をこのまま保育士をしながら子どもたちと接していくのがいいのか、それとも養育家庭になって、もっと個人的なだれだれちゃんの手助けをするという形で子どもに接していくのがいいのか、自分の思いがゆれていました。そんな時に体験発表会をお聞きし、思い切って仕事をやめて養育家庭をする決心をしました。

保育士の経験からゼロ歳から5歳の子どもには慣れていたもので、就学前のお子さんを希望しました。最初お話があったのは、小学生でしたのでお断りしました。その後、そのお話のお子さんは年長さんということが分かり、主人とはとにかく会ってみようということに話を進めてもらうことにしました。実はそのお話があった日は私の誕生日だったということから何かの縁があったのか、とんとん拍子で進んでいきました。

一番最初の顔合わせに施設に出かけていったとき、近くの公園へ行って、「じゃあ、手をつなごう」と、その子、Rと手をつなぎました。無邪気な印象の子どもでしたが、手をつなぐと汗ばんでいるのです。すごく緊張しているんだな、と思いました。会話は「うん」とかうなづくだけで余りしゃべらなかったのですが、主人とスーパーボールを投げ合って遊ぶと「きゃきゃっ」とすごくうれしそうな笑い声を立てたのです。

そんないい感じで交流が始まり、最終的にはお話があってから約6ヶ月後にうちに来ることになりました。ちょうど3月、その日は施設で18歳の子の卒園式があり、玄関のところに施設の全職員と子どもたちが集まってくれて、卒園式とは別にRのために歌を歌ってくれ、送り出してくれました。すると、それまでずっとにこにこしてうちへ来ることを楽しみにしていたのに、その時、つつつと涙をこぼしたのです。私はこの涙を無駄にはいけない、慣れた施設を離れて縁あってうちに来るRに何かしてあげなければ、という気持ちになりました。家では、家族記念日のケーキを用意していました。その日はロウソクが1本でした。「今日は家族記念日で、毎年1本ずつロウソクが増えていくのだけれど、12本立った時にはあなたは18歳になるのだから、自分の好きなこと、このうちから出て好きなことができるんだよ。」と話すと、その日はずっと緊張気味だったRはすごく納得した様子でした。

名前については、通称名を名乗ってもらうことにしましたが、私たちのことは、最初、おじさん、おばさん、と呼んでいました。でも、小学校に入ったら、お父さん、お母さんと呼べると言っていて、本当にそのとおりにしました。その切り替えは、子どもながらも非常にすごいな、と今でも思っています。

迎え入れてから1年くらいは、私と主人が描いていた子ども像、家族のイメージと、実際の生活の中でのギャップがかなりあって大変でした。保育士の仕事の8時間態勢と家庭の24時間態勢とは時間的精神的拘束が全く違うということ、その差をものすごく感じました。また、家族同士のイベントなどがあると、よその優しそうなお母さんのところへ入

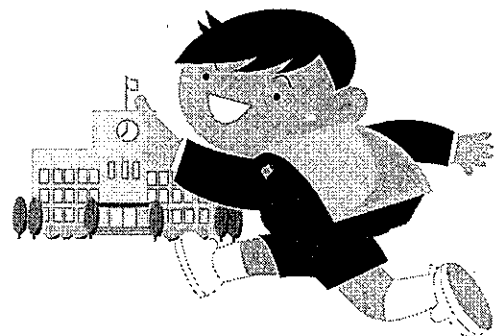
り浸ってしまうということもあり、この時は夫婦で正直かなり落ち込みました。養育家庭1年目は、保育士30年のキャリアもガタガタに崩れた自信喪失の1年間でした。

今は、Rを迎えて2年目に入り、よその優しそうなお母さんのところへ入り浸ってしまうというようなこともなくなりました。先日、養育家庭の集まりがあった時、1家庭ずつ自己紹介する場面で、我が家の順番になったら、向こうのほうで友達と遊んでいたRが走ってやってきて、ちゃんと家族として自己紹介することができました。家族という空気を读めるようになった、と安心しました。

小学校では、PTAや近所の同級生の家庭など多くの人との関係が広がっていきます。うちの一部の方には事情をお話し、理解していただいております。学校の担任の先生に一番最初の個人面談で、彼にはとても困らされているというようなお話をした時、先生は「それは仕方ないわね。子どもなんですから。彼はお母さんが考えているよりずっと頑張っていますよ。」と言ってくれました。その先生が2年目に持ち上がって、悪いことも言ってくださるようになりました。「最初はこうだったのだけれど、今はこうよ。」と、先生は子どもの様子をずっと見ていて下さっていて、最初から私に直接言わないで見守ってくれていたのだと本当に感謝しています。

経験不足というのでしょうか、ひとりで本を読むことができなかったり、自分の言葉で自分を表現することが苦手だったり、また、施設の日常生活では目にすることがなかったライターやマッチ、主人のひげ剃りとか、小銭とかを触ってみたり隠してみたりというようなこともありました。でも、養育家庭同士の関わりや、地域や学校の関わり、主人の母やお向かいの方、私の姉や近所のダンススタジオの先生に支えられて、相談にのってもらったり、救ってもらったりしています。

NHKのドラマの中で言っていました。「家族というのは、一緒にご飯を食べて、たくさん話をして、そうやって家族をつくっていく。そうすることによって家族はできるんだ。」ものすごく共感しました。また、ドラマの中の児童相談所の職員の方の言葉で、「普通が一番なんですよ。でも普通が一番難しいんです。」というのにも心に残っています。私は、彼をどうやって育てようと考えたときに、本当に普通に育ててほしいと思っています。普通に学校へ行って、普通に恋愛をして、普通に結婚をして、普通に家庭をつくる。それが、私と主人の目標ですが、でもそれが非常に難しいことなんだろうなと実感しているところです。



4 地域の人に支えられて

【里母】

今年6年生になったMちゃんを迎えて7年になりました。当時5歳の女の子でした。

私たち夫婦が東京都の養育家庭になったのは、結婚して都内に住んでいたときのことです。不妊治療のため大学病院に通院していた際に、掲示板のポスターを見たのがきっかけでした。2年以上の治療で心身ともに疲れ果てて、人生に対し希望が持たなくなっていたときでした。街で見かける親子連れをつい羨ましそうに目で追ってしまったり、野良猫をかわいがり猫に話しかける私の姿に見かねた夫が児童相談所へ足を運び、養育家庭を勧められました。

夫婦で研修会に参加し、我が家に迎える子どものことを考えて、社宅から現在の郊外へ越してきました。3ヶ月後、児童相談所から「このたび、Mちゃんが渡辺さん宅に決まりました」とのうれしい知らせがありました。転居して3カ月の間にいろいろなことがありました。乳がんと診断され、検査の結果、ステージ3と宣告されたのに、次の検査では乳腺炎といわれて、夫とともに喜んで帰宅したときの連絡でした。

Mちゃんは、我が家に来るべきして来たと、夫も私もうれしくて本当に心から感謝しました。今までの気持ちがうそのように晴れて、1日も早くMちゃんに会いたいと強く思いました。交流を始めましたが想像していた女の子とはちょっと違います。元気で活発なのはよいとしても、何を聞いても「いや、いや」と言うのです。交流期間中の土日には夫と2人で片道3時間かけて会いに行きました。Mちゃんに「きょうはパンダを見に動物園に行こうか」と言うと「いや」。「じゃ、水族館へお魚を見に行こうか」と聞いても「いや」と、施設の先生の背に隠れてしまうのです。門前払いで帰ってきたこともありましたが、先生に促され見送ってくれるようになり、やっと順調な交流が始まりました。

交流中のことです。金曜日にMちゃんを施設に迎えに行きますが、新宿で中央線に乗り換える頃は、「お母さん、お母さん」と甘えてくるのです。逆に施設に帰るときは、新宿から山手線に乗りかえて、施設の駅に近づくと、今度はお母さんからおばさんになるのです。駅から施設までの間、手をつながないときもありました。このMちゃんの変化にとっても戸惑い、5歳の子どもなのに、まるで違う人格を示すようで不思議な気持ちでした。

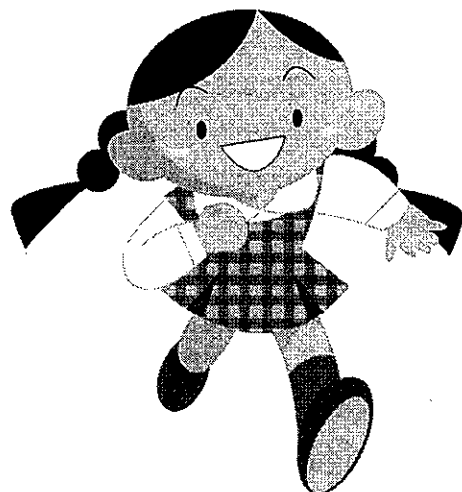
受託して春になり、どこに入園しようかと迷い、Mちゃんと一緒にいろいろ見学に行きましたが、近所の幼稚園の先生が抱っこしてくれ、「Mちゃん、待ってるね」と優しく声をかけていただいたことでMちゃんの心が決まったようで、ここにすると自分で決めました。こうしてMちゃんは、年長の1年間をこの幼稚園でお世話になりました。この幼稚園は、私にとっての子育ての原点となりました。一生忘れない思い出の1年間です。先生は、親切で本当にすばらしい先生でした。

自分で決めたことでしたが、突然5歳の子ども母親になり、心身ともにとても疲れしました。Mちゃんも見知らぬ土地で初めての幼稚園です。入園式のときも、とても緊張していたようです。なれない環境で幼稚園を3日ほど休んでしまいました。担任の先生が我が

家まで来てくれて、「お弁当だけ食べに来てね」と誘っていただけて翌日から登園できるようになり、4月生まれの誕生会も5月にしていただきました。トランポリンの順番が待てずに、前に並んでいる子の背を押してしまうこともありました。家では、秋に夫の実家から栗が届きます。園児の皆さんに食べてもらおうと用意しておく、ゆでた栗の量が2倍になっていました。変に思い栗を切ってみると、ゆで栗の中に生栗が入っていました。Mちゃんに「生栗は食べられないよ」と教えました。ささいなことでも泣くことがありました。ただ、甘えたかったのだと思います。

このように、毎日のようにお試しの行動が続き、心身ともに疲れ果て、妹に電話で相談しました。3人の子育てをしている妹は、私の話を聞くと「カッチャんに問題があるんじゃないの」と言います。納得できず姉にも相談しました。2人を育てた姉も、同じことを言いました。母親の私に問題があるのか、私が悪いのかと真剣に悩みました。それでも毎日生活しなければなりません。だれかに聞いてほしくて養育家庭の支援員をしていた方に勇気を出して電話をかけました。夜の9時頃だったと思います。親切に丁寧に私の話を聞いてくれ、ご自身の体験から適切なアドバイスもいただき、よかったと思いました。姉妹にもわかってもらえなかった私の苦しみを理解してくれ、まさに地獄のような苦しみの中で救いの手を差し伸べていただき、感謝の気持ちで一杯でした。養育家庭のほっとサロンでも、同じような悩みの方もいらして、苦労しているのは私だけではないのだと思うと気持ちが楽になりました。

Mちゃんが小学校に入ると、あれほど悩み、苦しんだことがうそのようです。PTA委員会活動でお母さんたちともお友達になりました。私達夫婦は学校や地域の方々に支えられ、今日まで養育家庭を続けてこられました。今後も使命があるならば、命の尽きるまでこの道を全うしてまいります。



5 2年間で得られた経験

【里母】

私は約6年前に、当時小学1年生の男の子をお預かりしました。とてもかわいい子で、まだ交流の段階で「お母さん」と呼んでくれました。その子は生まれてすぐ小腸を短く切る手術をしたようです。小腸が短いということは、食べてもすぐ出てしまっただけで栄養にならない。だから体も小さく細く、歯も生え揃ってないし、なんやかやと診察券が7枚もありました。どこかに連れて行ってもまずトイレを探さなければならない、2年生になっても換えのパンツを何枚か持たせる、お風呂に入った後には粗相がしてあるという毎日でした。

病院で相談したら、何しろよく噛んで胃でこなさなくてもいい位にしておかなければならないと言われましたが、それを子どもに教えることも理解できないばかりか、食べ物にすごい興味を示す上にかなりの早食いだったのです。私たちは食べただけ食べさせるよりゆっくり食べさせることを心がけましたが、とっても大変でどう説明したら分かってくれるか、毎日毎日それとの格闘でした。そんな訳で子どもとの関係ができる前にそんな大きな問題が発生していたのです。またその子は施設のグループホームで暮らしていたのですが、大きいお兄ちゃん達からいろいろと知恵をつけられたんだと思いますが、「お前の行く所は18歳までしか居られないんだよ」と言われたというんです。「お母さん、僕はここにずっと居られるの？」と言うもんですから「うちは、居たかったら高校卒業後もずっと居ていいんだよ。お母さんやお父さんがおばあちゃん、おじいちゃんになるまで、ずっと一緒に居ていいんだからね」という話をして納得してもらいました。1年生の3学期の途中から来たので、とりあえず夏のプールの時期までには粗相しなくてすむようにしたいと思い、「この量を一緒に分けて食べようね」と赤ちゃんの離乳食のような感じで育てていったのです。その甲斐あって夏までにはみごとクリアできました。

そのように段々私たちの関係もうまく取れていくかと思ったのですが、3年生になる頃にはギャングエイジよろしく徐々に外に気持ちが向いていきますし、お友達関係もできてくると外で何か食べたり、お友達の家でご馳走になったりすることもあるとあって、家に帰ってきてからまた粗相しているんですね。そういうことの繰り返しで、私としても何とかしようという気持ちが空回りしてしまうし、子どもも私を真正面から見なくなってしまいました。学校のお便りなども出さず、保護者会などのプリントも持ってこなかったのも学校の先生から直接連絡いただいたこともありました。

また、3年生の夏休みに新聞配達バイクにぶつかるという事故がありましたが、この時も目の下のアザはどうしたのかと聞く私に答えずそのまま学童に行ってしまいました。学童の先生が子どもに聞いて初めてバイクにぶつかったということを知ったのですが、その時子どもは「お母さんには言わないで」と言っていたそうです。私が今まで心配のあまり細かいことをいろいろ言うものだから、きっと彼にはうっとうしかったのでしょう。それまでは、お風呂と一緒に入った時にその日あったことを話してくれていたのですが、それなりにキャッチはできていたんですが、その事故のあった頃から子どもの行動がだんだん分

からなくなっていました。

粗相の件を小児病院で相談したところ、手術して外科的にはよくなっても完治することはない、自分で痛さやいやな思いなどを経験しながら自分なりに対応方法を見つけていくしかないと言われました。更に、我が家に来るまでの7年間はそのようなケアをされずにきたので、今更私が「ああしろ、こうしろ」と言ったところでそのとおりできるものではないとも言われました。心理の先生からは、今はお母さんも子どもも相互に拒否反応が出ているので、毎月合計3回ほど母子への心理面接を実施してみましよう、ということになりました。期待したのですが、子どもは皆からちやほやされることと帰りに外食できることが楽しみようで、思ったような効果も出ないまま、家に帰ってくると元通りと言う始末でした。家に帰れば食べるものは冷蔵庫にいっぱいあるし、息子と娘がおりますのでお菓子もその辺にあるし、いつでも飲食が出来てしまいます。こういう子は食べることで精神的な安定を得るものだという話を聞いていたので、かわいそうに思い制限することも出来ず、とても悩みました。そしてついに、大きいほうをお風呂の中で漏らしてしまうことが秋頃より出てきてしまったのです。私たち夫婦二人だけならいざ知らず、実子達の事もあって限界を感じ、お返しする方向で話を進めざるを得ませんでした。今日、この原稿をまとめながらもまた涙が出てきてしまいます。返してしまっからのほうが辛いんです。

もう3年経ちましたから、今6年生なのですが、同じ年齢の子どもを見ると、今どうしているんだろうと心配になり、施設に戻ってしまったことをとても残酷なことをしたのではないかと、すごく自分を責めてしまいます。

1年間ほど養育家庭のお仲間と会う事を避けていましたが、このたび児相と養育家庭と施設との三者交流会があることを知り、勇気をふるって自分の思いを誰かに伝えてみようと思いました。このまま養育家庭をやめてしまったら、同様な悩みを持った人と話し合うことも、そうならないように工夫する手立てもなくなってしまうと思ったのです。養育家庭仲間が様々な苦勞を共有することで、自分自身も救われるのではないかと考え、三者交流会をとおしてもうちちょっとがんばってみようとも思いました。

いま、バザーのお手伝いをするので、支部活動に専念しております。そしていろんな方々の参加を得て活動はとても活発です。新しくお仲間に入ろうと考えてる方もぜひ安心して加わってほしいというのが私の今の気持ちです。

最後に、私が悩んでいる時にお仲間から言われた次の言葉に大変救われ、今までがんばってこられた原動力になりましたのでぜひここでご披露させていただきます。

「あなたのうちに来た2年間は決して無駄じゃなかったんだよ。」



6 3人寄れば強いぞ

【里母】

我が家の家族構成は、知的障害児施設職員をしている夫と、仕切りたがり屋で天真爛漫の小学4年の長男、そして冷静沈着、しっかり者の小学1年の次男で、ともに野球少年で地元のチームにコーチの父と参加しています。母である私は結婚前後に保育士の仕事に就いており、夫とは子ども好き、アウトドア好きの共通点があり結婚しました。里親になろうと決意したのは、主人との共通の価値観を持って歩いていきたいという願いと、母親と保育士の両方の目で他人の子を育ててみたい、そして、その中から実子が何か大切なものをつかんでくれたらとの思いがあったからです。

そんな我が家に12月の暮れ、登録からすぐにT君の話がありました。5歳の男の子ということで少し迷いもありましたが、でも男の子のママだし、保育士の経験からも男の子の扱いは得意との自信もあったので、にぎやかな我が家になることを期待し、受けることにしました。初めての対面、色白で穏やかな雰囲気を持ったT君は声をかけると恥ずかしそうに照れながら、主人の胸に抱かれ髭をスリスリされ、「いたーい」と、けらけら笑っていました。次は実子とT君の子ども同士の関わりを見ようということで実子を施設に連れて行ったのですが、待ち構えていたT君はすぐにお出かけしたいとの希望。そのまま近くの公園に行きました。「お兄ちゃん、お母さん、お父さん」と呼び、長男の後を追いかけて走り回る無邪気な姿が見られました。純粹でおっとりしたT君に実子二人も「うちの仲間に入れてあげようよ」と次に会うのが楽しみの様子でした。3回目の交流は祖父母、従弟たちと大勢で訪問しました。叔父たちに面白おかしく遊んでもらい、満面の笑顔で興奮ぎみ。いろいろな人に声をかけてもらい、楽しい1日となったようです。実子二人の活発な言動に比べおっとりしたT君は「かわいい」の印象で週末だけでなく平日の休みのときも二人でお出かけするなど、まめに交流してきました。

いよいよT君が我が家にやって来ました。最初の特別扱いも長く続くはずありません。土日は兄たちとの野球、普段は家の前で近所の子もたちと遊び、私は仕事と家事で忙しい。この日常につまらなさを感じ、「あっちに行きたい。ここへ行きたい」と、要求するようになったのです。またT君は度々一人の世界に入り、話しかけても気づかないほどマイペース。でも楽しかったりするとテンションがあがり、人が変わってしまうのです。3歳までネグレクトの家庭で育ち、声かけ不足、経験不足からくるのか、物の名前を知らない、人と上手く関われない。その不足分を取り戻すように毎日毎日、「どうして」「何で」と、四六時中私にあびせかけます。次第にしつこくなると同時に私について回り、関わりの手さから「お兄ちゃん、お兄ちゃん」と言われていた兄たちからも「うるせー」と相手にされず、独り言も含め、しゃべり続けるT君。声も大きいので雑音のうるさに耳障りを初めて知りました。

それでも優しく穏やかに頑張っていた私ですが早く自分のペースを取り戻さないとストレスで爆発してしまうと、必死にこらえていたのです。悪い事をしているわけでないのに、怒ってはいけないと思い、保育士の顔を演じていたのです。T君は自分を大きく見せよう

との気持ちの表れか、嘘をつくようになりました。「知っている」は毎日のことで、兄たちも「嘘つくな」と怒鳴ることも多くなりました。その嘘もいろいろ含まれているので兄たちにそこを理解させるのが難しかったのです。とにかく、つらいことばかりで我が家にやってきたT君に、世の中の常識やマナー、人間関係が困らない程度に少しでも教えようと、身振り手振りで話しても最後は「わからない」の一言。同じことを何度伝えても忘れてしまう。T君のせいではないのに、打っても響かないこの子に一生懸命語りかける私、声かけの量が、圧倒的に実子より多くなり、「Tばかり優しくして」の反発も出てきました。身辺整理が良くできる実子と比べてしまい、これもまた反発の種。実子と里子の溝がどんどん広がります。ただ一人ががんばって空回りしているようで虚しくなりました。私に限界が来てしまい、首から上が固まってしまい、頭が重くなり、それを体で支えられず、歩くのもやっと、ストレスから耳も聞えづらくなりました。全体の先生より、気持ちと姿勢を上昇させるようアドバイスをもらい、それで何か吹っ切れるのを感じました。

その日、いつものように兄弟喧嘩をしている実子に「てめーら、いい加減にしろ、出て行け」と一喝。二人は大泣きしたものの案外あっさりと謝りにきたところを見ると、私を試していたんだなと思います。その瞬間、今までの元気で明るく怒らせると怖いお母さんに戻ったのです。そう、これが私らしい、もっと遠慮せずに感情を出していけばいい、何で気を使っているのだろう、私が3人を引張って行かなきゃ。その強さを忘れていたのです。私の変身振りは子どもたちの行動にも大きく影響するのです。嘘のつき方も上手で「わからない」ととぼけるT君に始めは受け入れ、それでも変わらない態度に「嘘をつくなら外へ出なさい」と庭へ連れ出し、泣き叫び、まさに感情と感情のぶつかりあいです。

結果、嘘はつかなくなり、今では「Tは悪い事をして外に出されたことがあるんだよね」と自慢げに話します。Tの育ちや成長、発達ばかりに目を取られ、感情に触れずに接してきたことは良くないと思いました。自分のことを一人の大人が最初から最後まで真剣に考えてくれる、兄たちみたいに外に出される。Tにとって必要なことはこういうことだったと気づきました。私自身、怖いばかりではだめなので、子どもたちと一緒に汗だくになってプロレスごっこを楽しみ、じゃれあい、笑いあい、いけないことをしたときは毅然とした態度で揺るがない。

里親をしていなかったら、もう手が離れたと思っていたら子育て、T君がきたことによって実子たちの心の動きも読み取るようになり、良かったと思います。年の近い男の子3人、些細なことでもライバル心の塊です。お互いに刺激しあえたら、それはとても良い方向に流れていきます。3人いれば盛り上がる、野球だってキャンプだって楽しいのです。

今度、T君は小学生です。3人が同じ小学校ということで助け合いながら育ててくれたらいいなと思います。今からとても楽しみです。

7 人から必要とされる喜び

【里母】

我家は養育家庭を始めて4年になります。現在小学5年の元気で、可愛い女の子を育てています。私たちが里親になることを考えはじめたのは7年ほど前でした。夫婦共働きで週末は夫婦でテニスをし、それなりに人生を楽しんでいました。仕事も趣味も充実していましたが、やはりどこか満たされない気持ちがありました。話合いの結果、子どものいない人生というのは寂しいねという結論に達し、里親になるということを考え始めました。慎重な主人は「子育てはしたいが、そんなに簡単に家族になれるのだろうか」と少し心配そうでした。想像して心配するより、実際に子ども達に接してみれば、よくわかると思い、同時にフレンドホームも登録しました。

すぐにフレンドホームとして幼稚園の年長さんのAちゃんを紹介いただきました。『運動が大好きな元気な女の子です』と伺っただけで、『我家にぴったりなタイプじゃない！？』と主人と大喜びしました。一方、6歳と聞いて私達が愛着関係を築けるのか少し心配でした。Aは人懐っこい子だったので、ほっとしたのですが、学園から外へ出ると固まってしまうのです。学園から抱っこして近くの公園に連れて行っても、他の子を怖がり帰りたいと、頑なに拒みます。Aにせがまれて連れて行ったマクドナルドも店内を怖がり、車内で食べました。そんなおっかなびっくりの交流でしたが、会いに行くと笑って歓迎してくれる日が続きました。

しかし、学園の運動会の日、突然私達を避けるんです。学園の友達にずるいと言われたことも理由だったようです。その次の回は学園の中でしか交流はできず、心配になり学園の職員に相談をすると「大丈夫ですよ。避けてるように見えますが、こちらを意識していますから」と言われて少し安心しました。私達はAの遊び慣れた公園から序々に交流の場所を広げました。交流が進んでもAはさまざまなものを怖がりました。初めての場所、お泊り、一緒にお風呂に入ること、バスや電車にのること、部屋に一人きりでいることはもちろん二人きりになることさえ、怖がりました。Aの様子を見ながら、少しずつ交流を深めていきました。

3ヶ月経ち、お泊りできるようになった時、寝るときも寂しいだろうから、添い寝してあげようとして近づくと拒否され、しかし一人では眠れず、妙な距離感と緊張感がありました。長く泊まれるようになって、主人が帰ってくるまで間がもたず、駅やファミレスで主人の帰りをAと二人で待った日もありました。少しの沈黙や静けさも怖いというのです。また、室内遊びより体を動かすことが大好きな子でしたが、公園やプールにつれて行っても、1年位は、はじめての場所は目が三角になり、固まってしまいました。出かけるたびに、はらはらどきどきの連続でした。今では、お出かけが好きになり、当時のことを考えると夢のようです。

1年経った頃、Aは決意したように、「私、決めた。学園やめる！このお家にずっといる」と突然言いました。夏休みを我家ですごした後に学園で、「夜寂しくて、お父さんと

お母さんに会いたいよって布団の中で誰にも聞かれないように泣いてたんだよ」とAから聞き、涙がでました。彼女の願いが通じたのか、数ヵ月後に児童相談所から養育家庭としてAをお願いできませんかと正式にお話をいただき、1年生の3学期から我家で生活を始めました。一緒に暮らせるようになったことが嬉しく、成長を見守れることに涙が出そうになりました。でも、しっかりと育て空白の時間を取り戻そうと、肩に力が入りすぎていたかもしれません。待ちに待っていた日々でしたが、急に1年生の親になり、私達も本人も大変な部分もありました。1年半交流しても、家族としての関係や生活は定着しておらず、毎日が嵐のようでした。勉強は教えてとせがむわりにはすぐに「わからないー」と宿題を破ってしまい、わがままはどれくらい通るのか、テレビやおやつの量では激しい綱引きがありました。特に食べ物への執着は強く、気に入らないとかんしゃくをおこし座り込むこともありました。反面、学校へ行く前はべたべたと私から離れられず、冷たい視線でみられたこともありました。救いだったのは、仲良しのKちゃんファミリーが、Aを理解してくださり、「今まで大変な人生だったのだから、大目にみてあげようよ」と、静かに暖かく見守ってくれたことでした。

そうやって、ひとつひとつ不安な気持ちや怒り等を聞き、ひたすら抱っこをし、赤ちゃんがえりに一生懸命つきあい、2年程すぎたころ、家族としての心の距離も急速に縮まり、意欲も出て、人間関係も徐々に良くなり、満面の笑みをみせてくれることが増えました。そんな笑顔を見ると本当に可愛いなあと思います。また、その頃に迎えた私の誕生日には、Aが背中に隠していたスケッチブックをハッピーバースデイを歌いながら「ママ、お誕生日おめでとう！」と渡してくれました。主人とAの手作りのアルバムでした。「大暴れしても、抱っこしてくれてありがとう！ママ愛してるよ！」とAが言ってくれ、初めて3人で嬉し泣きをしました。ちゃんと彼女の心に向き合った私達をみていてくれたのです。私達の方が、ありがたい気持ちでいっぱいでした。

5年生の今も、甘えん坊で毎晩添い寝が必要で、手がかかりますが、心から愛しい子です。里親になったことを後悔したことはありません。Aも『パパとママに会えて、この家に来て本当によかった。毎日普通の家から学校に通えて本当に嬉しい。これが夢だったらショック』、『小さいころ目がさめたら、いつのまにか学園にいて、自分にはパパもママもいなくてとても心細かった』と今だに言います。『ママとパパがそばにいてくれるから私は毎日とっても幸せだ』という言葉はたまりません。私達家族の生活はとても充実しています。人間は自分だけのために生きているよりも、人から必要とされることが人生の喜びとなることを実感しています。

Aのように長期間、実家庭へ帰るのが難しい子には、温かい家庭で生活できるよう、心から願っています。Aも『学園の友達にも新しいパパとママできるといいのになあ…』と時々つぶやきます。それには多くの家庭にほっとファミリーの登録していただくこと、そして、温かい地域の方々の応援が欠かせません。どうぞ皆様、この子達に普通の幸せを実感させてやって下さい。

8 里親こそが私のライフワーク

【里母】

私は、市報に里親募集の記事が載っているのを見て、子どもに恵まれなかった私はすぐに里親の登録をしました。今までに6人の女の子さんとの出会いがありました。

1番最初に、我が家に来たお子さんは、5歳で施設から参りました。このお子さんは、お母さんの虐待を受けたお子さんでした。我が家に来ての生活は、夫の言うこと、話すことはほんとに喜んで聞くんですが、お母さんがわりの私の言うことは聞く耳もたずという感じで、頑として言うことを聞きませんでした。それがずっと続きました。

高校生になって、卒業間近になりましたときに、自分は看護師さんになりたいと言い病院付属の看護学校に入り、我が家からの自立になりました。

2人目のお子さんは、上の子が小学校4年生のときに乳児院から3歳で参りました。このお子さんは、来て早々に私に「お母さんができてとってもうれしい」ということを言ってくれて、私はほんとに我が子ができたという感じで、とってもうれしかったことを覚えています。

このお子さんが、家ではとってもいい子だったんですが、外でいろいろと問題を起こし、家にはいられないような状況をつくってしまいました。自分から中学校2年生になるときに家を出たい、施設でも良いから行かせてほしいということを出しました。私は、本当に自分の子どものように可愛い、可愛いと育ててきましたから、その時はショックで言葉がでませんでした。しかし、やむを得ず我が家から出しました。

その次のお子さんは、何年かして、中学校1年生の子どもで児相から朝電話をいただき、緊急ということだったと思いますが、その日の午後に参りました。我が家での生活はほとんど会話がなくて、話しかけても「別に」と言うし、「どうなの」と聞くと「普通」という感じでした。思春期の難しい年ごろですし、これだと思って覚悟はしていたつもりでしたが、ちょっと大変でした。頭のいいお子さんで都立高校に推薦で入学が決まりまして、私どももほっとしておりましたが、本人もちょっと油断したんでしょうか、男の大学生から電話がかかってきて、朝帰りが始まりました。これでは無理、限界ということで、やむを得ずお返しさせていただきました。

それから、何年かたちまして、今度は高校1年生のお子さんが、お電話いただきましてから、二、三日ぐらいして参りました。それから、半年ぐらいして中学校2年生のお子さんが来ました。2人になって、とてもにぎやかになったなと思っておりまして、またいつの間にか夫婦2人だけの生活になっていました。

ちょっと寂しいね、もう少し長くいてくれるお子さんが来ないかしらということで、児相にお願いしましたら、今度は小学校6年生の私どもにとっては孫のような可愛いお子さんが来てくれました。今はその子を中心に3人で楽しく生活しています。

長いこと、どうして里親をやっているかですが、夫婦2人とも健康であったこと、そして夫が私以上に子どもが大好きで、常に協力的であったことです。それと、子どもに恵ま

れなかった私は、里親こそが私のライフワークというふうに勝手に決めて、どんなことがあってもあきらめないをモットーにしてやってきました。

いろいろなお子さんと出会いがあつて、苦しいことつらいこともいろいろありましたが、今になって思うことは、お子さんたちが来てくれて、夫婦2人だけだったら寂しい人生だったという思いがします。今になって思いますと、いろいろなことがあつて、あの子はああだったね、こうだったねという思い出話も、笑って話せるというか、楽しく思い出せる、そういう状況になっています。

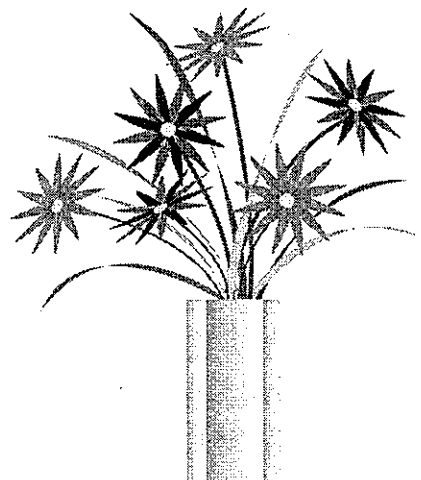
そして、もしできるならお子様に恵まれなかった方、子育ての終わった方、そして子育て中でも余力のある方、ぜひ里親さんを引き受けていただきたいと思います。

実の親に受け入れてもらえなかった子どもたち、その子どもたちに少しでもいいですから、温かい心と温かい手を差し伸べていただいて、私ども里親のお仲間になっていただけたら、こんなにうれしいことはないと思います。

つい、二、三日前にもバザーがありまして、そのバザーの作品をつくるのも、皆さん集まってわいわいがやがや手づくりを楽しんで、その間にいろいろな子育ての愚痴やら、こうだ、ああだと話をしながら、里親同士で作品づくりを楽しんだりしています。ぜひ、お仲間になっていただけたらうれしいです。

里親制度があつたからこそ、私たち夫婦は寂しい思いもせずにやってこられました。ほんとに、この制度には感謝、感謝で、今はおります。

今は、6年生の子がおりますけれども、その子は読書が大好きで勉強をそっちのけで本を読んでいます。時々夫のほうがちよつとうるさくて、たまには勉強しろって言うんですが、子どもには、それはあなたがかわいいからだよということは常に言っています。ただ、私は図書館の司書という資格も持っている立場上、読書は子どもには大事だからということで、本を読ませてあげたいという気持ちでおります。簡単ですが、体験談を話させていただきました。



9 今、とても幸せ

【里母】

今私は、小学4年生の女の子をお預かりしていますが、なぜ養育家庭を始めたのかということからお話したいと思います。

私が高校3年のとき、職業選択に悩んだ末、「子どもは未来をつくる、未来の社会そのものなんだから、子どもが大事にされない社会は滅び行く社会だ」との思いから児童福祉の仕事を目指すようになりました。しかし、その後の人生は全く予定外に展開し、30代には2人の息子を抱え、会計事務所勤務でした。子どもを幸せにする仕事でしたかったはずなのになぜ、と思い悩んでいたとき、資格がなくても里親だったらできることに気づき、いつかは里親と心に決め、息子の成長を待つうちに児童虐待が目につくようになります。私の思いは絶対里親、早く、早くと募っていきました。

そして高校卒業後29年にしてやっと、里親認定され、数ヵ月後、紹介されたのが今の娘です。娘は、2歳9ヵ月から施設で生活をしています。身寄りはなく、「おうちが欲しい」、「パパとママが欲しい」と、訴え続けていたという子です。交流期間は「ここがあなたのおうちになるんだよ、これからは、私たちがずっと一緒だよ」という気持ちが伝わるように心がけましたが、彼女も甘えるのが大変上手でした。

お風呂では「洗って」「ふいて」、着替えは「脱がせて」「着せて」、移動のときは「抱っこ」、「おんぶ」。これがまた、長い手足でコアラのように私の体にぴったりとへばりつきます。その2歳児くらいの要求を9歳の長く大きい手足から出されるさまが、こんなに大きくなったのに、本当ならもっとすっぽりと抱ける、もっと小さな手足の時に甘えるはずだったのに、と思うとたまらなく切なく、彼女に涙を見せないようにするのは大変でした。

交流は、駆け足で進められ、3月、彼女が7年間暮らした学園とお別れの日、園長先生に「この子は帰るところのない子です。見た目で外国人とわかり、名前もカタカナなのに日本語しか話せず、日本で生きていく子です。どうか日本の普通の女性としての文化・習慣を身につけさせ、18歳以後もよりどころとなってあげてほしい。」と言われました。こうして4月、我が家の地元の小学校の4年生になりました。

我が家の誕生会は、本人が前年の反省や当年の抱負を家族に宣言し、「あなたが生まれた」ことを皆で喜び合う会なのですが、偶然にも2人の息子と新しい娘は、3人とも4月生まれで、家族のお祝いが続く4月でした。そして新しい家族を記念しての写真撮影をして、5月にはその写真で挨拶状も作りました。また、5月には運動会もあり、娘はリレーの選手になったので、私の両親や弟家族、息子たちの彼女と大勢が集まり、皆で応援し、娘も大喜びでした。これらのことは、「おうちがほしい」と言っていた娘が、家族を感じ、その家族につながる大きな家族である親戚を感じ、さらにその多くのつながりの中に自分も加わったのだと実感してくれることを願ってのことでした。

初めての出会いから10ヶ月、娘には気が強くあやまるのが下手とか、都合が悪くなる

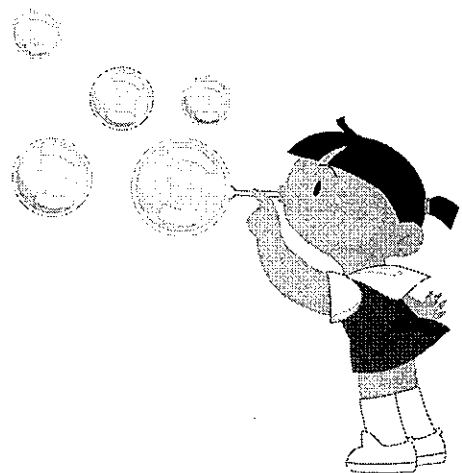
と自動的にふさがれてしまう耳と自動的に発生する騒音装置つきの口を持っているとか、噛むとか、叩くとか、汚い言葉とか、食べ物の好き嫌いとか、算数が苦手であるとか、作文が書けない、本を読めないなどさまざまな課題あります。

自分の子育て中には気づきませんでしたでしたが、0歳からの子育てというのは、自分の好きなもの、考え方、やり方に染めていくことだったのだとしみじみ思います。その子の個性が出てきても初期の段階からですから、お互いに染め合って、落ち着いていったのだと思います。ところが感情面の発達は大人と同じといわれる10歳になった娘が、私とは違う習慣を身につけて、私と向き合ったわけですから私が嫌がることを学園で教わったと普通にやります。中でも気になるのは、食べ物を大事にしないことです。そして言葉使いが汚いこと、噛んだり、叩いたりをなかなかやめないことです。

「くそ婆」、「鬼婆」と、息子たちにも言われたこともない言葉を、かわいい顔をした娘に言われ、がっかりします。

担任の先生に、「大人の生き方が問われますね」と言われましたが、まさしくそのとおりで、私の生き方が問われます。これは、とても厳しいことです。しかし、厳しい中で、今とても幸せなのです。抱きしめて髪をかき上げるとき、湯船で私の胸元に顔をうずめているとき、仕事から帰ると玄関に飛んできてまさしく飛びつかれるとき、「ほら、来たときよりこんなに大きくなったよ」と、鏡の前に2人で並んでいるとき等、大変なことの何倍もの喜びがあり、楽しく充実しています。

養育家庭になって、人生の後半での再度の子育ては、夫婦の絆が深まり、息子たちや両親との絆も深まります。さらには毎日がいきいきと輝きだします。皆様に養育家庭っていいなと思っていただけましたら大変うれしく思います。



10 お兄ちゃんとマー君

【里母】

里子のマー君がうちに来て7カ月になります。まだまだ新米の里親なんですけれども、この短い期間にあったことをお話しさせていただきます。

うちの家族は、夫、私、小学校2年生の長男とマー君で4人になります。その長男が「弟が欲しい」と言い出したことから、養育家庭に登録しようと思いました。

マー君との出会いは、1年程前の去年の11月でした。まだ当時1歳7カ月で、乳児院に面会に行きました。マー君はとても小さく赤ちゃんぽい、かわいいなという第一印象でした。

面会を重ね、お正月過ぎから外泊をするようになって、3月の末、マー君の誕生日に正式委託になりました。交流を始める時に私たち夫婦が一番心配したのは、マー君とお兄ちゃんとの関わりでした。それは今も一番の懸案ではあるんですけれども、お兄ちゃんとの関係がもう少しうまくいなくて、私たちの家族関係に無理が生じるようなら、申し訳ないけれど里子をお返ししよう、ということをお話し合ってからマー君との交流を始めました。

面会を始めると、案の定お兄ちゃんは揺れに揺れてくれまして、ますます甘えん坊になりました。マー君を入れて3人で一緒に遊ぶんですが「お母さん見て」「お母さん遊んで」と、お兄ちゃんがまとわりついてくるんです。いやー、困ったなと思って「どうしたの」と聞くと「だって、さびしいんだもん」と言うんです。

1月の中頃、お正月外泊が終わり施設に戻った後の面会日のことです。その日は、マー君がお兄ちゃんとの遊びに乗り気ではなかったんです。3人で遊び始めるとお兄ちゃんは疎外感を感じてすね始め「お母さん抱っこして」と来たんです。しょうがないと思って抱っこしました。そしたら今度はマー君が、これはやばいと思ったらしくトコトコと走ってきて「抱っこして」と言うので、こっちに抱っこ。距離が縮まりちょっとほぐれるかなと思ったら、マー君がお兄ちゃんをぐいーっと押しちゃったんです。要らないというんです。お兄ちゃんはすねていたの、ええっという感じで私の後ろに行き「ひとりがいいんだ」「3人ではいるならお父さんと3人がいい」と言い出しましたので、今日はまずいなと思って面会を中止しました。

施設からの帰り道、かみくだいてお話ししながら帰ったんですけど、彼はまだ自分の想いを説明できないんです。私の問いかけにも「うん、うん」とか「わかんない」という感じで返ってこないのです。私から一方的にわかるように、いろいろな気持ちも含めて話しました。

そうしたら、何かが彼の心の中にすんと落ちたらしくて、途中から表情がすごく明るくなり、その日を境に揺れの幅が大分小さくなっていきました。このことがあって、親としては、マー君が正式にうちに来る前にお兄ちゃんとの親子関係に「保険」をかけておこうと考えました。

夫は「少しでも時間がとれたら、とにかくお兄ちゃん優先に遊ぶ」と宣言し、実行してくれました。私も、それとは別に、お兄ちゃんとの関係を作ろうと、3つのことを実行しました。

1つ目は、今まで余り二人で遠くにお出かけしたことがなかったので、ちょっと遠出のお出かけを何回かしました。これはどのくらい思い出になってくれるかわかりません。

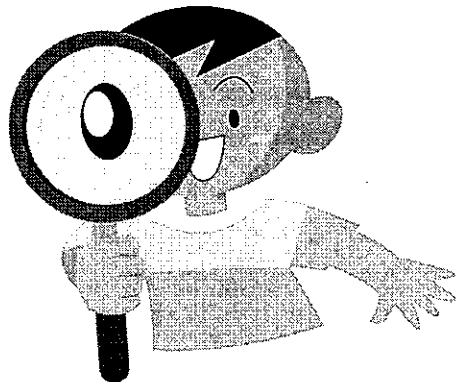
2つ目が、まだ学習机を買っていなかったので、手づくりしようと思いました。たまたま木工の先生が近くにいて知り合いになっていたので、ほぼ私がつくったんですが、仕上げはお兄ちゃんと一緒にやりました。これはほぼ丸一日ぐらいかけて一緒に作業したので、結構満足のいく時間が持てたかなと思います。学習机はかなり大きいものなので、いつも目にふれるところにありますし、手で触れるわけです。これから先何か親子関係で危機的な状況になったとしても、目にふれてちょっと考えてくれるかな、あのときお母さんと一緒につくったことが手で触ってわかるかなというふうに、私としては思っているんですが、どうでしょうか。

3つ目は、夜のお茶会の時間をお兄ちゃんと持つようにしました。一対一で向き合う時間をちゃんととりたかったんです。それが夜しかないので、マー君が寝てから一緒にお茶を飲み、お菓子を食べてお話をしたりテレビを見たりという時間を30分ぐらいとりました。学校に行くのが遅刻ぎりぎりになりましたが、それはさておき、家族の気持ちの安定につながったかなと思います。お兄ちゃんもその時間を楽しみにしてくれましたし、私もお兄ちゃんをないがしろにしていないという安心感がありました。これは2月頃から始めて夏休み前ぐらいまでずっと続けました。2学期からはとっていません。ちょっと落ち着いたかなと思っています。

学校でも、最初はけんかしたりすぐ泣いたりということがあったらしいですが、6月半ばぐらいから落ち着いてきました、と先生からお話があったときは、正直言ってほっとしました。

マー君は今、お兄ちゃんのまねをとことんしています。すごく理解力のある子で、よく聞きよく見ていて、何でもまねるので、お兄ちゃんは時々ぷつんと切れて「やめろー」と言ってけんかになりますが、端から見ている分にはとてもおもしろい状況です。お兄ちゃんにしてみればまだマー君との関係のとり方がちょっとわからない。その辺は諭しながら、この二人の関係は今後見守っていくしかないかなと思っています。私は、本気でけんかができるようになったところで「とりあえずよし」としておこうかなと思っています。

子どもたちの関わりの変化とか、私と夫がこれから子どもたちとどう成長していけるかというのが、怖い反面とても楽しみです。仲間に助けられ、家族の大切さもすごくしみじみわかったので、一人でも多くの仲間と一緒に子育てしていけたらとてもうれしいな、と思います。



11 成長する姿を見る喜び

【里母】

幼い時から施設で育った、現在中2の男の子Yの里親となって丸3年になります。ちょうど1年前の体験発表で、そのときに書いた物を読んでもみると、当時次々と問題が起き、その対応に追われていたのですが、この1年のYの成長ぶりというものが見えておもしろいなと思いました。

まず我が家の紹介を簡単にさせていただきますと、実子は既に結婚していて別に暮らしています。よく盲導犬になるようなラブラドルレトリバーという犬を2匹と、それから里子が来てからもう一匹ふえたので、今は人間が3人、犬が3匹という家族構成です。

私たち夫婦は、お互いに児童養護施設などで働いた経験から里親ということに関心があり、以前からやってみたいと思っていました。

小学5年の暮れにYが委託され、Yとの生活が始まると、細かいことですがいろいろな問題が起こってきました。Yは、すごく明るく誰とでもすぐに友達になれ、優しくて動物好きでいい子なのですが、面倒くさがりやで、身の回りのことを自分で管理することができなくて物をなくす、壊す、忘れ物が非常に多いです。また、1人で留守番などをさせるとたががはれるということがあります。だから、1人で家にいてもやっちゃいけないことを口を酸っぱくして言っているのですが、それを守るようになるには相当時間がかかるだろうと思っています。

うちに来たばかりのころは、何かちょっと注意するとだんまりをきめこんで、全く口をきかなくなり、こちらもカッとなってお互いに口をきかないこともありました。ある日の朝、宿題を教えていると、ふてくされてストライキを起こしたので、ついこちらも頭にきてしまい「そんなに勉強が嫌いなら学校に行かなくていいよ」と言ったら、もう梃子でも動かなくなってしまいました。今度はこちらが慌ててしまって11時半が過ぎたころ、「給食の時間なんだけど給食食べに行かない」と言ったら、「うん」と言って出かけたのでホッとした覚えがあります。

結構強情っ張りなところがあるなと思って、こういうやり方はだめだと痛感したわけです。そんなふうには、お互いに押したり引いたりしながらだんだん距離感がつかめてきました。私が児童相談所の方からたびたび言われていたことは、「大目に見てあげて」ということでした。ただ、私としても家庭にはその家庭のルールというものがあるので、それは守ってもらわないと困ることがあるので、Yにはそれが厳しく感じることもあったのかなと思います。

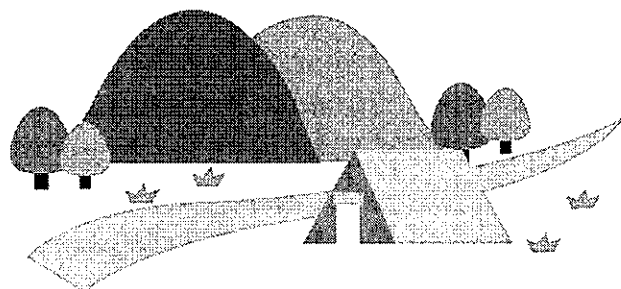
中学1年の2学期に入ると友達をいじめているということで、何度か学校から呼び出しがありました。相手の親御さんのところに謝りに行くこともあり、私もちょっといい加減にしてという感じでした。そういうなかで、今度は部活で問題があると学校から呼び出しを受けました。夏休み中はほとんど毎日部活があったのですが、どうやら部活がおもしろくなってきたらしくて、無断でさぼったり、行っても友達の邪魔をしていたそうです。担任から部活を続けるかどうかという判断を迫られたのです。私は、Yは部活の友達も多いし、やめたらなおのこと生活が乱れるんじゃないかなと思って、Yに続けるように言いました。Yもそれに納得し、願

問の先生を呼んで、Yが「これから真面目にやります、ごめんなさい」と謝ったとき、「私は真面目にやる生徒は大切に、それは当然だろう。君はふざけてほかの生徒の邪魔ばかりしているからやめてもらっていいんだ。」と先生は冷たく突き放すような言い方をしたのです。私は、そのことにちょっとかちんときまして、部活の顧問という前に1人の教師でしょう、それが教師の言う言葉かと。やる気のなくなった生徒をそんなふうに切り捨てるなんて教師として失格だというふうに思ったのです。そういう環境の中で、勉強、勉強、部活、部活というふうにきゅうきゅうとした毎日を過ごしているのだなと心底Yに同情しました。これで家でもきゅうきゅうにしたらかわいそうなんだということで、そのとき児童相談所の方が言っていた「大目に見てあげて」という言葉がほんとはよくわかりました。あの子にしてみれば、普通の家庭で育った子より根っここのところで幼いというか、育ち切れていない部分があるので、ほかの子どもと同一で比べられたらかわいそうなのです。私もそのことは児童相談所や、前の施設の職員から教えていただいていたのですが、学校の先生はそこまで気を使ってくれないのです。本当は言うてはいけないのかもしれないのですが、Yに「卓球強くなって顧問の先生を見返してやれ」と言ったのです。そして、今後無断で部活をさぼらない、友達の邪魔をしないという2つの約束をさせました。その後、Yはずっと約束を守って最近腕も上がって、先日は市民大会の個人戦で銀メダルを取るまでになりました。

去年まで抱えていた問題としては、物を大切にしないということがありました。文房具、小学校のときのランドセル、自転車の鍵などをすぐに壊し、部屋の壁紙をはがし、ベッドをコンパスで傷つけるということが頻繁にありました。ほとんど困り果てて施設の先生に相談したとき、幼児期に愛情を十分に受けてないと、人や物を大切にできないという愛着障害というのがあると教えていただきました。

それが、そういえばこここのところ大分少なくなったことに気がついたのです。愛着障害というのがそう簡単に治ったとは思わないのですが、大分改善されているのかなと思います。それは、きっと部活の事件の後、私がYに対して本当の意味で寄り添うことができるようになったからかもしれません。

最近Yはよく、よその人から褒められます。里親会のキャンプのときには、年下の子どもの面倒をよくみます。同じ里親から上手に遊んでくれると感謝されます。そのようなわけで、里親仲間からは希望の星と持ち上げられています。少しずつではありますがありますけれども、Yが成長していく姿を見るのが私の喜びになっていまして、また自分も成長できているのかなと思います。



12 実母と一緒に育てたMちゃんの思い出

【里母】

私は、幼い頃から幼稚園の先生になるのが夢でした。そのための専門学校在学中に児童養護施設で実習し、一緒に子どもと生活することに喜びを感じて、児童養護施設に就職しました。その後、結婚して退職、2人の娘の子育てに専念しました。自分の子育てに少し余裕ができて、施設勤務中から抱いてきた想いから、夫婦共に迷いなく自然な流れで養育家庭に登録しました。

現在は、多くの児童養護施設がより家庭に近い状態で生活ができるようにと工夫や努力をして環境づくりをしています。それでも大人数である以上はルールや決まりごとが多くなってしまいます。食事の時間、就寝の時間など一般家庭よりも厳しいと思われる部分があります。

何年もお世話をしてくれた職員が辞めてしまったり、兄弟同様に育ってきたお友達が家に帰ったりと、一番安定していなければならない生活の環境が変わることも多々あります。保育士になるために勉強中の実習生などが、短期間生活を共にすることもあります。子どもにとっては喜ぶよりも気を遣ったり、ストレスになることが多いのではないのでしょうか。施設で暮らすにはそうした環境に慣れていくしかありません。よく「施設の子は人なつっこい子が多い」などと言われますが、そうなる環境に置かれているからだ、と私は思っています。

養育家庭は、家族や地域の一員として子どもが馴染めれば、一番理想的な形だと思います。子ども時代に幸せな家庭生活を体験することが、その子の将来に重要な意味を持つと思います。

しかしその反面、すれ違いなど気持ちが通じ合えないとお互いの理解が困難になり、最悪の場合はその子と別れなければならず、養育家庭と子ども双方に深い傷を残すことにもなります。

虐待や養育環境によって精神的なサポートが必要といわれる子がふえる中、保育や子育ての知識に裏付けられた専門性と、複数でいろいろな目線から1人の子を見ることが出来る点は、逆に施設だからできることでしょう。1人の子どもについて、問題が起きれば話し合いをし、様々なアプローチを行えるのも施設だからこそ、と私は思っています。

2歳のMちゃんを預かったのは、私の娘が小学校1年生と2年生のときでした。Mちゃんは、数回の交流の後に乳児院から直接うちに来ました。実母と交流があり、月に数回乳児院からお母さんのところへ外泊していました。受託の段階から、自分のことがある程度できるようになる小学校就学前まで預かる予定と聞かされていました。

里親と聞くと、自分の子どもとして育てるイメージが強いと思いますが、私たちの場合は最初から実親と一緒に育てていく感じでした。緊張や不安があった当初のMちゃんの表情はとても固く、おとなしい子でした。そのうち、だんだんと慣れてくると笑顔もふえてよく笑い、愛らしい表情を見せてくれるとても明るい子になりました。

うちにいる間もMちゃんと実のお母さんとの交流は続き、月に数回泊まりに行っていました。その際には、児童相談所で実のお母さんともお互いに顔を合わせて、体調のことや、うちにいる間にこんなことがありましたよ、これができるようになりましたよという話をしました。

我が家に問題が起きたときも、Mちゃんのお母さんにお伝えして、それでも私たちと一緒に居させてもらえるかとお話したこともありました。頼りない私たちに大事なMちゃんを預け

てくれたお母さんも、心配や不安があったと思います。今でも感謝の気持ちでいっぱいです。

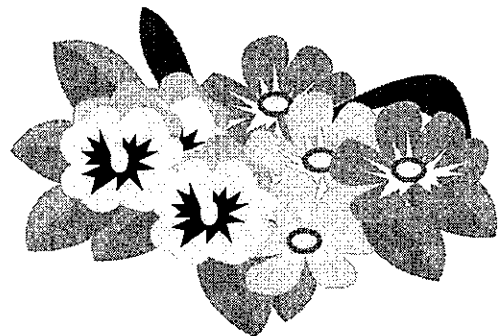
子どもと向き合うには、自分に精神的な余裕がないとできません。私も1日子どもたちと過ごし、時には自分のイライラをぶつけてしまうこともありました。そんな時に支えてくれたのが夫です。帰宅すると娘2人とMちゃんが走って玄関に出迎え、今日はこれがあった、あれがあったと我先に報告します。そんな時も夫は「まずはママの話を聞いてから」と私の話を真っ先に聞いてくれました。私が散々愚痴や子どもたちのちょっとした悪さを告げ口すると、夫は穏やかに諭すように子どもたちに話をし、子どもたちも私に素直に謝りに来てくれました。さらにその後は子どもたちの報告が延々と続くわけですから、夫も大変だったろうと思います。それでも、毎日ほとんどの時間を子どもと過ごす母親のサポートはやはり夫であり、父親としての大事な役目です。今でも、子どもたちが寝た後、子育てについて夫婦で話し合っています。

子どもを育てていると、悩みや苦労はあると思います。だからこそ、うれしいこと、楽しいことも実感できるのではないのでしょうか。それは、自分の子でも、施設の子も里子も同じです。

Mちゃんは、自分の名字で幼稚園に通い、私たちも周囲に隠すことなくオープンに里親であることを伝えてきましたので、近所の方に幼稚園の送迎をしてもらったり、用事のあるときに預かって遊んでもらったりと、助けていただくこともたくさんありました。私たちは、地域の方々にも助けられてMちゃんと一緒に育てていたと思っています。

Mちゃんは就学前に無事にお母さんのもとへ戻ることができました。無事に帰れて良かったという喜びが一番でしたが、やはり寂しさは大きくて、子どもたちの前では平静を装っていましたが、別れてから1カ月ぐらいはそっと泣いていました。

それから1年後、児童相談所を通してMちゃんから年賀状をもらいました。そこには、入学式でランドセルを背負ったMちゃんの写真がありました。見ることはできないと思っていたランドセル姿の幸せそうな笑顔に感情が一気にあふれて、声を出して泣いてしまいました。その年賀状は、今でも家のリビングに張ってあります。事あるごとに、元気かな、何をしているかな、と子どもや主人と話します。Mちゃんと一緒に暮らせて心から良かったと思っています。



13 最初の3ヶ月が肝心

【里母】

結婚当初、夫に35歳までに子どもができなかったら養子縁組をしたいと伝えました。主人はわかったと言い、39歳になってもやはり子どもができず、ついに養子縁組をすることを決意しましたが、日本における養育家庭、養子縁組をどこに話をしたらいいか、どこで受け入れてもらえるかが全くわからず、インターネットをあけても犬や猫の里親の話はいっぱい出てきても、養育家庭には全くたどりつかず困りました。

遠い親戚の養子縁組をしたカップルに会って話を聞きました。「実際どう?」「すごくよかったよ、まだ1年ぐらしか預かっていないけれどもいいよ」彼らはファクス1枚で、タイ人の男の子を引き取りにいったのです。「どうして決めたの?」「そういう次元ではないというか、顔がどうか、性格がどうか、そういう問題ではなくなる」そういうもんなんだなと思って日本に帰国しました。

その2ヶ月後「2歳11カ月の男の子がいるんですが、短期で預かってみてはいかがですか」と聞かれました。長期を希望していたので短期の子を預かるというのはどういうことかなと考えましたが、短期でも何でもまずやってみようと思い決意しました。

そして面会し、3日後にはうちに来ました。最初に「何を食べたい?」と聞くと、「トマトを食べたい」と言うので、とりあえずトマトっぽい料理は一通り全部つくってトマトを出しました。おいしそうにパクパクと生のトマトを食べました。2ヶ月の予定がとっくに過ぎて、だんだん愛着がわき、お母さんのところにいつか返さなければいけないんだなと思いながら生活をしていくとだんだんつらくなり、この子どもがどうなっていくのか心配になりました。半年も過ぎたころに、このままでは多分子どもが戻ったときにすごく苦しい思いををすると思ったので、もう一人預かれたら預かりたいと希望しました。その2ヵ月後、6歳の女の子を長期前提で紹介されました。交流してもお宅まで会いにいきたがらないとか、お泊まりはとんでもないとか、夜尿があります、斜視があります、と言われ、私は斜視という言葉も夜尿も初めて聞いて、「何ですか、それ?」聞き返しました。お恥ずかしい話ですが。そういう子どもですけれど、どうでしょうかと聞かれ、そう言われても自分の根本には子どもの顔を知っていようが知るまいが、性格がどんな子であろうがうちに連絡があった以上は、これは縁として考えるしかないもので、実際に交流を始めました。

1回目の交流は施設の近くで食事と散歩をし、「また会いたい?」「会いたい」「いつ会いたい?」「あした」「あさってだったら何とかなると思うけど?」「いい」「じゃ、あさって来るけれども、実はうちにはもう一人子供がいて、弟になる子がいるんだけれども、それでもいい?」と聞いたら、えっ!と少し戸惑うような表情を示しました。何を戸惑っているのかと思ったのですが、彼女はすべての愛を独り占めしたいという希望があることがわかりました。それでも会いたいと言ってくれたので、後日というその日に今度は4人で会いました。食事をして、公園で散歩して、楽しく2時間ぐらいいろで施設にお戻ししました。そしたら随分気に入ってくれたようで、すぐにまた交流したいということで3回目の面会の時にはうちに泊まり

にくると言ってくれました。そして初めての夜尿を体験し、施設での食生活、文化の違いをまざまざと覚えることになりました。結局3週間も経たないうちに受け入れることができました。実際に2人を預かり生活をしていますが、特に6歳の女の子を受け入れて、施設の中でしみついたことが一番私には大変で、私がつくる御飯を片っ端から食べては首をかしげて「まずい」と言い、かちんとくことばかりやられました。それと3歳の男の子の上に6歳の女の子が来たので、女の子には十分甘えさせてあげることができませんでした。どうしても下の子に手がかかるので上の女の子が随分我慢をしてかわいそうな思いもさせました。赤ちゃん返りもたくさんしました。その中で一番印象に残っているのが、自分で擬似誕生会を行ったことです。迎えて、最初は体を自分で小さくして、赤ちゃん言葉や泣き声で1歳の誕生日をやり、ロウソクをつけて吹き消して2歳、3歳、4歳、5歳と一通りやっていました。おっぱいを飲んでみたり、いろいろな時期にいろいろなことを行ない、こうして1年がたちました。

最後に、預かってからの3カ月間にやっておいたほうがいいと思うことが実はあります。それは、子どもは自分の一番いいところを見せます。たとえばよくお手伝いをしてくれたり、勉強をして見せたり、その良い癖たちを一日でも長く続けさせてあげることで、心機一転今までのがよかった生活習慣を伸ばしてあげたいということ。また、逆の意味で悪い癖や、家族とやり方は全く合わないというものがあるときは、徹底的に自分たちのやり方を最初にたたき込みました。それがいいかどうか私にはわかりません。今はやっぱりよかったなと思っています。その3カ月間で自分たちがいかにすり合わせできるかによって、その後がすごく楽になったような気がしました。だから、最初の3カ月間を大切にしてほしいなと思います。



14 光をもたらしてくれた子ども

【里母】

今、2人の女の子を預かっています。実子はいません。

一旦は「夫婦で子どもなしで人生生きていこう」と決めましたが、やはり何か薄雲りの空のようで気持ちが晴れませんでした。主人とも相談し、当時の養育家庭センターで募集していた養子縁組里親に登録しました。しかし、待機していた1年を経て、子どもを育てたいという思いがあれば、養子縁組ではなく養育家庭でも子育てはできるのではないかと思い、登録を切りかえました。

それからしばらくして、児童相談所から、「もうすぐ3歳になる女の子に会ってみませんか」とお話がありました。「はい、ぜひ」と乳児院へ向かいました。

子どもの姿を見て、「何てかわいいんだろう」と思いました。交流を重ねるうちに、子どもも徐々に私たちを意識するようになり、交流に行くたびに泣いていました。「この子に嫌われたのかな」と、ちょっとショックを受けましたが、よくよく考えてみれば、子どもも、この人たちがお父さん、お母さんになってくれるんだろうか、ちょっぴり嫌だな、それともどうかなと様子を伺っていたのかもしれない。

外泊交流で初めて我が家に来たときもとても緊張していました。乳児院とは違い、普通の家庭で、大人2人とその子だけ。周りに子どもはいません。言葉をかけても首振り人形のように首を振るだけ。しかし、私たちも知らない家では、しゃべらないほうが正常ではないかと思えます。とにかく、言葉をかけながら接していました。外泊が終わり、施設に帰ると、子どもは「あー、よかった」という安堵の表情を浮かべて、施設の先生のところへ行き、私たちには「ばいばい」なんてしていました。

その後も交流を続け、互いに関係を深めて、いよいよ我が家に来る日は「じゃ、おうちに行こうね」と言うと、施設の先生に「さよなら」と言ってやってきました。

我が家での生活がスタートし、一つ一つ言葉をかけながら、一緒に歌を歌いながら、お散歩しながらと、だんだんと互いに慣れていきました。その後、子どもはとてもよくしゃべるようになりました。しゃべることが好きで、性格は明るく、元気潑刺。静かに沈んでいた我が家にまさに光がやってきたという感じでした。

我が家に来てから1年くらいたったころでしょうか。うそをつくようになりました。単純なうそではなく、上手にうそをつきます。もしかしたらこの子はうそを本当だと思っているんじゃないかと思うほどのうそをつきました。

ある日、食事中に「お腹が痛い」と言いました。あまり好きではないおかずだったのです。しかし、丁度帰宅した主人が買ってきたお菓子を食べたかったので、困った表情をしていました。うそとは言えず、あれこれ理由をつけて結局ご飯もお菓子もしっかり食べたのでうそとわかりました。夜布団に入ってから、「今日は一日楽しかったね」と声をかけ、「お腹はもう痛くない？」と聞くと子どもがおろおろするのです。やはりうそが通るものだと思わせるのは良くないと思い、聞きたくなかったのですが、「本当に痛かったの」と聞きました。すると「え

一ん」と泣き出すのです。私が「うそはいけないよね」と言ったら、「うん、わかってる」と言うのです。しかし、「あなたは耳で聞いていて、心で聞いてないでしょう。人の話を聞くということは心で聞かないとね」と言いましたら、「うわーん」と大泣き。「お母さん、しかってくれてありがとう。うわーん」と。しかってくれてありがとうには、びっくりしました。そして「乳児院にいたときにうそをついたことある？」と聞くと、「いっぱいついたけど先生は叱らなかった。だからいいと思った」と話してくれました。今はほとんどうそをつくことはありません。

我が家での生活にすっかり慣れ、その後「妹がほしい」と言い出しました。私もきょうだいがいたら本人のためにもいいと思い、もう一人受け入れることにしました。そして、小学校入学のころに、待望の妹がやってまいりました。

妹は、上の子とは全く違う性格でおっとりとしています。お姉ちゃんは元気潑刺、にぎやかで陽気。妹はおっとりとしてのんびり、マイペース。何とまあ、性格の違う子どもが我が家に来たことか。私は、いろいろな性格の子どもたちを育てさせていただけ、ありがたいと思いました。そして、私たち夫婦は子どもと接する中で楽しみが増えました。一つ一つやることも性格も違いますから、その様子を見ながら、くすくす笑ったり。とにかくありがたいと感じることばかりです。

お姉ちゃんは小学2年生になり、友達がたくさんいます。子どもが話しかけてきたときには、きちんと聞く。すると子どもも学校であったことなどよく話してくれます。そして、「何かあってもお母さんはあなたの味方よ」と伝えています。家事に追われる中でも、妹は「お母さん、遊んで」ときます。少しでも子どもとの時間を持ちたくて、洗濯をしながらでも、ご飯の準備をしながらでも、話しかけています。

我が家は通称名を使っていますが、お姉ちゃんとは名前の話もよくして、話すたびにきちんと説明しました。最近は、「お母さんは私のお母さんだけど、私を生んでくれたお母さんってどこかにいるの？」と聞くようになりました。「いるよ、生んでくれたお母さんはちゃんというのよ」と話しました。「会ってみたい？」と聞くと、「うん、一度会ってみたいな」と言います。妹にも「あなたは〇〇という名前なのよ。みんなそれぞれ名前が違うのよ」と話しています。4歳になったばかりの妹も少しずつわかってきているようです。「ここのうちにずっといていいの、お母さん」と聞くので、「いいよ。ずっといてもいいよ」と伝えると、うれしそうな顔をしてにたと笑ってくれます。

私は、この子たちは、ずっと私たちの光であり続けると 생각합니다。薄暗い空のようだった気持ち、子どもが来ることによって明るくなり、もう一人やってきてまた明るくなりました。子どもは光をもたらしてくれます。

これからも我が家に来た子どもたちを大切に育てていきたいと思っています。

15 夫と仲良しになった陽気なちびちゃん

【里母】

娘2人と息子1人が独立し、今は私と夫、里子のちびちゃんを迎えた3人家族です。

私は、長くボーイスカウト活動を続けながら、様々な子育てのボランティアにも関わってきました。たまたま市報で養育家庭を知り、現住所に越したことをきっかけに夫に「こういうことがあるんだよ」と話したら、気軽に「うん」と返事してくれたので登録に至りました。

昨年1月頃に里子さんのお話が来て、急に夫と一緒に施設に会いに行くことになりました。その途上、ずっと夫は「相性が合わなければ断れるんだよね」と何度も何度も聞いてたんです。多分、夫は「他人の子どもは難しい」と思い込んでいるところがあったのでしょう。

私の方は、ちびちゃんと会ってから、その月に4回、数時間のお遊びやちょっとした買い物でおやつをかうなどして、2月には1泊のお泊りを経験させるということで3回ぐらい来たとします。3月からは週に1回、今週は1泊、来週は2泊と徐々に交流を増やしていきました。

4月からは小学校に就学だったので、それに向けておうちで過ごせるように進めていきました。

ちびちゃんがおうちに来た初めの頃に夫が、正面で両肩を持ってすごい迫力で「うそはつくな」と言ったのがかわいそうでした。背筋をぴんと、しゃきとして聞いてました。でも、このちびちゃんはすごくひょうきんな子で、陽気で笑い系が大好き。その性格ですごく助かっているんだと思いますが、それなりに無理なく学校に通えるようになったんです。

最初の保護者会のとき、お母さん方が1人ずつ自己紹介をしました。私は、初めての里子で何もわからない状態だったので、そのことをお伝えして「何かありましたら、どんな些細なことでもいいですからご連絡ください」とお母さん方にお願ひしましたら、同じクラスのお母さんたちも協力してくれるようになりました。結構忘れ物が多い子なので助かりました。

入学して困ったのが、文字や数字がよく読めないことでした。毎日、家でワークブックを使い、簡単な復習をプリント2枚ぐらいから、だんだん3枚へと増やしていきました。文字が書けるようになったら本を読もうと、昔話みたいな簡単な絵本から、それも今日はこの1ページ、これが読めるようになったら次は2ページずつと、少しずつ増やしていきました。半年もしないうちにちゃんと絵本が1日1冊読めるようになって、そうしたら楽しいのか、自分で図書館に本を借りに行くようになりました。しょっちゅう好きな本を借りてきては、ぱらぱらと読んで満足感だよ、という感じで結構楽しむようになりました。

友達が皆スポーツクラブに行ったり、お勉強に行ったり、お稽古に行ったりで遊んでいないので、うちの子もどこかに入れようか、ぜんそくがひどかったのでスポーツをやらせてみよう、と、1日体験したらサッカーが面白いというので入会しました。これが週3回、月12から13回もありました。それから、海が全然楽しめなかったのが泳げるようにしよう、とスイミングスクールにも入れました。こちらは全然進歩しませんが、週1回「おもしろかった」と言って帰ってきます。こんなことで一週間のうち4日か5日は、結構忙しく過ごしています。

陽気な面はいいのですが、テンションが上がり過ぎるといろいろトラブルを引き起こします。

学校で友達にけがをさせたとか、人の持ち物が気になり、例えば6色のえんぴつがどうなっているか知りたいと折って調べてみるとか、思った途端にすぐやっけてしまいます。担任の先生が、人の物にこうしてはいけないとか、悪いことをしたらお母さんと一緒に謝りに行きなさいとか、上手に持っていてくれるので、とても助かっています。

一番私を悩ませたのは、1年生の「自分史」です。自分の名前の由来、生まれたときの自分、親や周りの人たちの気持ち、今までどう育ってきたかなどを発表をする授業でした。

児童相談所にお電話をかけて「こういう問題が来たんですけどこの辺はどうなんだろうか」と確認したり、母子手帳をひっくり返して「こんなに病気をしてたんだ」と思いながらそれを書いてあげたり、子どもをあまり傷つけないように、どうにか前向きになってほしいと思って、一生懸命うそにならないような文章づくりをして、苦労しました。

今では、子どもが自分のペースで、このうちではこうやって暮らしていくとうまくいくんだと覚えてくれたし、こちらもこの子はこうなんだというのがある程度わかってきたので、すごく楽になりました。

夫もすごく変わりました。夫は、口うるさくて、子どもとのかかわり合いは難しいと思っていましたら、それががらっと変わり、不思議なくらい2人の気が合うようになりべたべたとします。「おじちゃん寝ようよ」なんて言われて「うん、うん」と布団を敷きに行きながら、夫も子どものペースで8時半ぐらいになると布団に入って寝ちゃうんです。

私がどちらかというと小言を言う分、夫が優しく、ちびちゃんにとっては両方うまくバランスが取れて、都合の良い家庭になってきているのかなと思います。最近、額にしわを寄せていたのが、すごくおっとりとした穏やかな顔になってきているので、私にしてみればすごくうれしいと思いながら眺めています。

また、ちびちゃんは、里帰りする息子や娘たちとのかかわり合いも楽しみにしていて「いつ来るの」とわくわくして待っているようです。今は、気楽な里親生活をやらせていただいております。



16 縁を感じる里子との長いつきあい

【里母】

私は、もともとひとり親で母子家庭として子どもを2人育てておりました。

お子さんがうちに来てから、2年半ぐらいになります。里親制度に興味があったり、社会貢献がしたいということではなく、その子が友人の子で小さいときから交流があり、その中で児童相談所の方々から助言していただき、結果として今里親という形でその子をお預かりさせていただいております。

出会ったきっかけは、まだ彼が小学校の低学年ぐらいで、遠くの病院にずっと入院していて、友人が彼の養育を十分にできておらず、お見舞いにも滅多に行ってあげていませんでした。一緒に面会に行ってもらいたいという話が出たので、ちょっとした好奇心というか、小さな子どもが長いこと遠くの病院で闘病しているというのはどんなことなんだろうなというような軽い気持ちでつき合ったのが初めて出会ったきっかけです。そのときの印象というのがすごく鮮烈で、お母さんが一生懸命抱っこしてあげたり、頬ずりしたり、それなりに愛情を表現するのですが、絶対に目を合わせようとしないし、最後に顔も見ないで自分だけふっと帰ってしまうような感じがあって、それがうちの子どもに似ているなという印象がありました。小さいながら、自分が要求してもかなえられないことがあるということがよくわかっていて、泣いてもわめいても無駄なんだったら僕は泣きもしないし、わめきもしないよというふうに表現しているような感じがしたのです。後の里親研修で先生が、里親さんが初めて里子さんと会ったときに、自分の身内のだれかに似ているという印象を持った方って結構うまくいくんですよという話をしていましたが、初めて会ったときのことを思い出し、なるほどなと思ったのを覚えています。

それから私一人で面会に行くようになりました。何のよりどころもないような環境の中で、放っておかれるというか、そういう生活をしている彼に対し、継続的にずっと変わらないものでいてあげたいなというふうに思いました。

その後退院をして施設入りました。やっと遠くから近くの施設に移ることができて、彼はとってもうれしかったみたいで、「あそこだよ」と言って施設の明かりを指差してかけていったんですね。よかったな、近くなったし、やっぱり施設は彼にとってはより居心地のいいところだったんだなと思ってすごく安心しました。それからは手紙を書き、返事は1枚も来たことはないのですが、とにかく私はずっと気にしているし、つき合っていきたいと思っていますということを伝えることにしました。

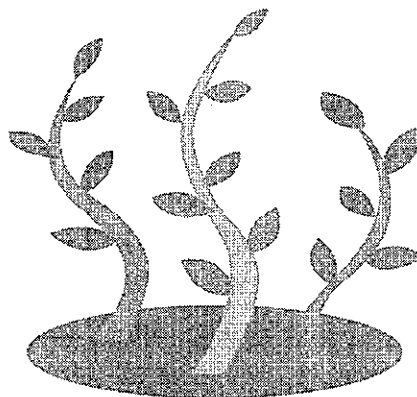
そのうち、結局また子どもへの面会が、だんだん友人自身遠のいてしまってきて、何となくそれを補うような感じで、私がまたちょこちょこ行くようになり、フレンドホームの制度を利用させていただいておつき合いを続けるようになりました。

結局、おつき合いをしていく中で、ある程度大きくなると、小さいころみたいに一緒に外出しても、そこで何か話が弾むということが少なくなり、そうしたら関係が終わっちゃうなと思ったので、それだったらばうちに来てもらって、一緒に生活する中で別に何を話すでもなく、

一緒にご飯を食べたり、一緒にテレビを見たりというような形でつき合っていくのがいいのかなと思い始めました。そんな時担当の福祉司さんが養育家庭制度を勧めてくださって、中学3年から来るということになりました。うちに来ることが決まり、お泊りをしたときに印象に残っていることは、すごいため息を漏らして、「僕はこれから一体どうなるんだ、不安だ」と言い、「何で」と言ったら、「普通の家で暮らしたことがないし」と言うので、私も何でこんなこと言うのかわからなかったのですが、そんなに普通の家で暮らすことが大変なことなのかなというぐらいにしか思いませんでした。実際に来てからもそんなに違和感がなく、彼は気を使っていることがあるのかもしれませんが、こちらが困ったことというのはありませんでした。実子もう大学生で、児童福祉心理学を勉強していたので、大学の里親制度の講義で、手を挙げて「うちやってます」と先生に言ったら、講義中にいろいろなことを質問されたというのを聞き、私は結構助けられたと思っています。

今悩んでいることは、彼の成績が下がっており、預けたことで悪くしてしまったという印象で、勉強もちゃんとやっていた子なのですが、ただうちの実子と比べるとすごくこの子はいいなと思えるので、そういうところがバランスがとれているといいますか、世の中の目を広く、視線を広く持てば、問題ないというか、少しぐらい逸脱していても、自分のできるぐらいでいいのかなという気持ちも半分はあります。ただこれ以上悪くなったら、ちょっと相談しなければと内心想っています。

あと、実親さんとのおつき合いも、けんかしながらも続いていて、ある意味で楽、頭に来ることもあるけれども、お母さんの不器用ではあっても子どもへのすごく強い気持ちというのは、私が負けてしまうほどです。うるさいし、一緒に住むのは嫌だけれども、でも僕のことをいつもすごく気にしているお母さんという人がいて、毎日一緒にいる比較的楽ちんな、わかってくれる里親はいるしというぐらいで、私もそういう役割分担ができるのは楽だなというふうに思っています。



17 驚いた習慣

【里父】

里子を迎え入れる前の私の家庭は、私と家内と5歳の長男、祖母の4人家族でした。

子どもは5歳になると手がかからなくなり、トイレ行っても「お父さん、おしりふいて」って出てきた子どもが、全部自分でできます。「僕がやる、僕できるから」と言い、しだいに自分の手から離れてちょっと寂しくなり、もう一人子どもが欲しいな、子どもに兄弟が欲しいなと思いましたが、結婚が遅く、家内は高齢出産でかなり難産、体が弱いということもあり、自分の子どもはもう無理かなというのがありました。

そんな折、家内がこの発表会を何かで知り、里親制度を知りました。私は、以前から自分のできる範囲で人様のお役に立てればいいなと思っていたので里親の申請をし、認定、登録しまして、里子と交流が始まりました。

1歳10カ月の男の子を紹介していただき、写真を見せてもらい、とても食いしん坊の元気なお子さんですということで、乳児院に行くところから交流が始まりました。

3カ月くらい毎日通いました。最初はきょとんとしていたのが、1～2週間経つうちに顔を見ると満面の笑みで迎えてくれるようになりました。

そんなとき神社のお祭りに行ったのですが、何も欲しがらないんです。風船のヨーヨーを買ったと記憶していますが、買って帰ったところ、余り喜ばない。どうしたのかなって考えたら、施設にいと自分の物がなく、全部がみんなの物、そういうことで自分の物に固執しないところがあるんだなというのを感じました。

交流が進み、外泊するようになりました。食事ですが、乳児院には小さなプレートがあり、御飯のお茶碗、その御飯におかずが入っていて、おみそ汁とお茶があります。うちに来て食事を出したとき、全然食わず、おかしいな、食いしん坊の坊やって聞いていたけれど、どうしたのかなと思い、施設のと同じような形にしたらぺろぺろと食べちゃったんです。ちょっと驚きました。

あと、お風呂に入れるとき、自分は裸にされるのはいいのですが、親が脱ぐと怖いといって泣いちゃうんです。今までは自分が裸にされ、面倒見る人はエプロンをしたまま裸にならず洗ってもらうわけですが。家に来ますと、皆と一緒に入りますから、洋服を脱ぐと大騒ぎ、ものすごく泣くんです。とても驚いたのと同時にちょっとかわいそうといいますか、普通の家庭でないところで育ったので、そうなのだと思います。

それと、乳児院だと子どもがたくさんいて、面倒見る方が少ないということもあって、お昼寝も一人で寝かされちゃう。うちに来て、昼寝の時間に寝かそうと思って一緒に添い寝して歌うたったり、体たたいたり、あやしたりしても寝ないんです。どうしても寝なくて、一人で放っておくと寝るよというのを知識で知っていたので、部屋を閉めて一人にしておくと、最初は自分で遊んでいるんですけどもすやすや寝ちゃう。これまたちょっとかわいそうだなと思いました。普通だと添い寝して寝かしますのでもっとふびんというのか、かわいそうだなと思いました。

もう一つ驚いたのは、よく食べることです。大人と同じぐらい食べて、こんなに食べて平気なのかなというぐらい食べます。後になって正式な委託を受けていろいろな研修で先輩の里親の方からお話を聞く機会があったのですが、どこでもたくさん食べるということで、ある時期が来ると普通に帰りますので好きなだけ食べさせてくださいと言われて、それでほっとしたというのを覚えています。

いよいよ委託を受けて我が家に迎え入れることになりましたが、比較的すんなり飛び込んできてくれました。うちの長男も普通に何ていうことなく受け入れました。

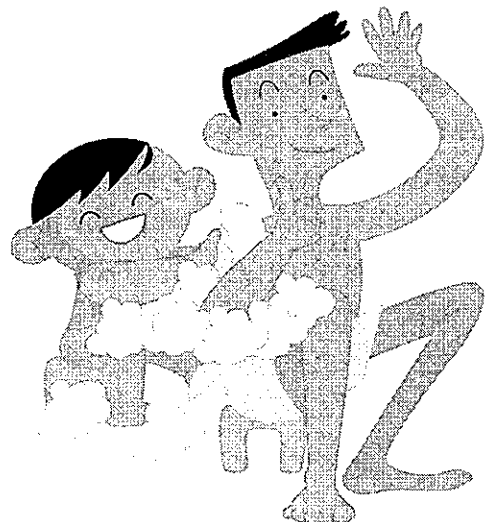
一つおもしろいのは、長男を里子と一緒に小学校に迎えに行ったとき「なんだ、弟がいたんだ」と友達に言われ、「そうなの、弟が来たの」と。それでちょっと笑っちゃいました。友達も「そうなのか、弟が来たんだ、ふーん」なんて言って、子どもってそんなもんなんだなと思いました。実子が里子を迎えて変わったかという、私をとられると思ったのか、里子を抱っこやおんぶ、肩車をしていると自分もしてほしくて抱っこ、おんぶと飛びかかってきます。そんな赤ちゃん返りがあったりしました。

養育家庭では、里子を大きな愛情で包み込むといういろいろ聞きますが、基本的には家庭のルールを最優先するとともに、18歳になると社会で自立させなければならないので、そのときに困らないルールなどをしつけておかなければなりません。譲れない点は譲れない、だめなものはだめという、そういうルールでやってきました。

最近の様子ですが、今幼稚園の年長さんに入りました。お手伝いが大好きで、何かやっていると「僕、それやってあげる」っていろいろ手伝ってくれます。友達も随分できまして幼稚園も楽しくてしょうがないみたいです。

里親になってみて、縁というものを特に感じるようになりました。人に話すときも上の坊主とか下の坊主と言って、実子とか里子という区別をせずにいます。

里親制度とは一般家庭の中で生活するお子さんを増やすという意味でも必要で大切な制度です。その制度に自分も参加していることをよかったと思っています。



18 赤ちゃんがやってきた！

【里母】

我が家は現在、主人と私と小学校5年生の娘、2歳9カ月の女の子の里子の4人で暮らしております。里子がちょうど1歳になった月に我が家へやってきました。それなので、まだ里親歴1年9カ月の新米です。

乳児院で最初に会ったときの里子は、表情も乏しく、色白で小さくて、神経質そうに私と主人を警戒しているような子でした。何度か面会を重ねて、週末には、主人と実子と3人で乳児院に面会に行きました。お弁当を持って行って、乳児院で離乳食と一緒に食べたり、みなでお風呂に入ったりしながら交流を重ねました。初めて会ったのは、たっちができるようになった頃でしたが、我が家に来る頃から本格的に歩き始めました。歩き始めるようになると、自分自身で移動することが可能になり、いろいろなものに興味を持つようになりました。いたずらにコンセントを引っ張ってみたり、ティッシュを出してみたり、そこらの子どもがやるようないたずらはすべてやりました。そのたびに「だめだよ、だめだよ」と言って本当の娘のように叱ったり、甘えたり、怒ったり、いろいろしてきました。

半年もすると、お客さんが来るとだれよりも早く玄関に行って「ちわ」とか「どうじょ」と言いながら、部屋に案内してくれるようになりました。「いつもいろいろすみません」と私が言うと、隣で「いつもちえん」と言ったり、愛嬌もあって、歌やおしゃべりもとても上手なので、近所の人も私たちもすごく楽しませてもらいました。

今でこそ、娘のような感覚ですけれども、最初からすべてがうまくいっていたわけではありません。最初に里子を預かってみたい、里親になってみたいと言い出したのは私でした。大家族で暮らすことを夢に見ていたし、子どもがたくさんワイワイいる家庭を作りたいという希望がありました。しかし、自分の子どもは1人しか生まれず、その後も授かることがなく、里親をやってみたい、もっといっぱい子どもを育ててみたいという気持ちが盛り上がってしまいました。

今もそうですが、以前保育士として働いていたこともあるので、子どもの扱いには慣れていたし、自分の子どもを一人育てている自信もありました。それで「里親登録しようよ」と主人に相談を持ちかけたところ、ちょっと年が離れている主人なものですから「体力的にも、年齢的にもよそ様の子どもを見る、そんな自信はないよ」と言って反対しました。私の実家の母も、娘を3人育ててきましたが「里子さんを育てるということは、その子の人生を左右することであるし、すごく責任重大なのよ」と言って、やはりいい顔はしませんでした。それでも「やってみなければどうなるかわからないし、実子も里子も同じように育てればいいんだよ」と説得して、養育家庭として登録しました。

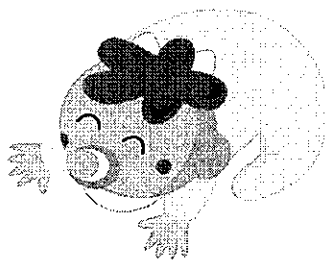
里子が我が家に来て、半年もしないうちに1歳の里子の女の子に主人はメロメロになってしまい、かわいくて、かわいくてしょうがないという感じでした。実家の母にもとても懐いて、実家の母が遊びに来ていると里子も母から離れないぐらい仲がよくなりました。私が養育家庭になることを一番望んでいたのに、また一番お世話をしているのに、思ったイメージどおりにいかなくて、最初の頃はいらいらしていたのかなと、今振り返るとそんなように思います。

当時、小学校3年生の実子は、妹が欲しくてずっとサンタさんに「妹が欲しい、妹が欲しい」と言っていたので、里子が来てくれたときには、オムツ替え、着替え、食事の介助などよく面倒をみてくれました。実子が小学校の先生に「今度うちに、妹が来る」と話しました。そうしたら学校の先生に「妹は来るじゃなくて生まれるでしょう。あなたの言葉の使い方は間違っているわよ」と言われました。こういう理由で妹が来るのだということを説明して、今では先生もよく理解してくれています。学校のお友達の中には「里子って何?」、「さとこっていう子ども?」なんて言う子とか、赤ちゃんポスト（こうのとりのゆりかご）が話題になった時期だったので「この子は親に捨てられた子なのでしょう」なんていう言い方をする子もいて、心ない言葉に傷つきました。それでも実子は友達の理解を得ようと一生懸命に頑張ってくれました。実子自身も「血がつながっていないと妹って言えないのかな?」などと悩んだ時期もあったようですが、家族でたくさん話し合って、「こんなにかわいいのだから、一緒に暮らしているのだから、血がつながってなくなったら妹だよ」という結論に達しました。そんな実子のいろいろな働きかけもあって、今では小学校に遊びにいくと、友達の輪の中にまぎれて、帽子をかぶらされたり、荷物を持たされて一緒に帰ってきたりと実子の友達みんなが里子をかわいがってくれます。

近所でも、同じ年代のお友達がいるので、野球をやったり、サッカーをやったりして遊んでいます。近所のお母さんたちも、突然来た赤ちゃんですので、事情をお話しして、お古をいただいたりとか、お菓子を分けてもらったりとか、協力してもらっています。近所の方はお年寄りが多いのですが、お年寄りの方とてもかわいがってくれます。外にいれば必ず声をかけてくれたり、私たちの手伝いをしてくれたり、下町の昔ながらのお互いさまというような環境で里子を育てています。

そうした近所の方の応援があると、すごく元気が出ます。この先、真実告知や里子が18歳になって巣立っていくときなど、どんなふうになるか本当にわからないし、この先のことを考えると不安で仕方がないこともあります。実の親に育ててもらえなかったことが不幸なのか、周りの人にかわいがってもらって、応援してもらって、楽しく育っていくことが幸せなのか、里子自身が小さくてどのように感じているか今はまだわかりません。しかし、大きくなったときに自分の境遇をしっかりと受け入れて、幸せだったと思ってもらえるように育てていきたいと思っています。

養育家庭のことをもっと幅広く知っていただいて、応援していただけるような世の中になったらいいなと思っています。



19 一歩踏み出そう

【里母】

3年前に区報で短期里親募集というお知らせを見て、区役所に問い合わせたところ、体験発表会への参加を勧められ、初めて参加しました。自分より人生の先輩たちばかりで、私の居場所ではないような雰囲気に戻りたいというのが正直な気持ちでした。その体験談が衝撃的な話という訳ではなかったのですが、思春期ならではの子育ての大変なお話で、丁度自分の子供が高一と中一という思春期の真ただ中で、息子たちの子育てに向かい合うだけでいっぱいの時でした。里親などは絶対無理、できない、考えられないと思っていました。第一、周りの大人たちの無責任な行動で心に穴があいてしまった子供たちにどう対応したらよいかという自信もありませんでした。でも、そういう子供たちがいるという現実はやはりすごくショックでした。しかし、家に帰って日が経つにつれ、居場所のない傷ついた子供たちが現実にいると思うと、何か自分にできることがあればと考えたりしました。

次男を生んだ後、第三子を妊娠したのですが、病気が判り、子供を諦めると同時に子供を産めない体になってしまったので、何かの縁で神様が授かるようにチャンスを与えてくれたのかな、里親をやってみようかなという気持ちが70%ぐらいかたまってきました。主人に思いを話したところ、子供は好きだけれども簡単に受け入れられることではないし、やっと息子たちが成長して手がかからなくなってきた時期にまた一から子育てを始めるのは、私に負担がかかるとあまり賛成ではありませんでした。私の中でもいろいろ悩んでいたときに、友人が、困っている人に手を差し伸べるのは、大変で勇気が要ることだけれど、自分にできる限りのことを全力でやってあげればいいんじゃないと言ってくれました。自分の中で里親だからこうでなければいけないという観念がずっと楽になりました。それまでの肩の力が抜け、その言葉に背中を押されて、申し込みをしました。そんな気持ちを主人も家族も理解してくれて、すべてのことが前向きに動き出しました。

すぐに子供が来ると簡単に考えていたのですが、なかなか来ませんでした。待ちに待った連絡が4ヵ月後に入り、1歳3ヵ月の女の子の紹介を受けました。主人もその頃には楽しみにしていて、女の子ということでとても乗り気でした。女の子に会いに行く日は熟睡できないほど嬉しく思う一方で、産まれてたった1ヵ月で親元を離れて乳児院で生活することになったその子の状況、過程がとてもショックでした。親との面会もなく、施設で過ごさなければいけない子が目の前にいることに自分の気持ちが追いつかず、消化するのに時間がかかりました。

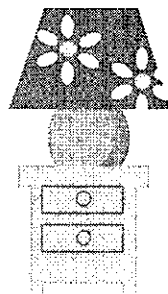
初めて会ったときの娘はとびっきりかわいいワンピースを着せてもらって、この先自分がどうなっていくか全く理解できておらず、にっこり笑って、名前を呼びかけると私の指をぎゅっと握ってくれました。そのときの感覚は今でも覚えていて、握ってくれたことがいろいろなことへの不安とか、今まで自分の中で消化し切れない、追いつかない気持ちが一気に吹っ飛んで、ただただ早く一緒に生活したいという思いが強くなりました。娘は、自分だけに来る大人が今までいないので、私たちが来ることは楽しみでもどうやって関わっていいか解らなくて、遠巻きに様子を見たり、直接相手をされると大泣きしてしまったりが二、三回ありました。保育士

さんたちが積極的に二人になる時間をいっぱいつくってくださり、結構スムーズに慣れてくれて、1カ月ぐらいで自宅に連れてくることができました。

新しい家族としての生活が始まり今年で丁度2年が経ちました。今は反発の3歳児で、「いやだもーん」とか、全く言うことを聞いてくれないのですが、やっぱりすごくかわいいし、愛おしく、かけがえのない存在です。一つの括りとしては、養育家庭とか、里親、里子という文字はあるのですが、実際の生活の中では自分の本当の子供だし、実親さんには申し訳ないですが私の娘だと思っています。そう思いながら、お父さん、お母さんをやらせてもらっているのですが、実際のところは貰うパワーのほうが大きくて、彼女からのエネルギーでここまでこれているという感じで、巡り逢えて本当によかったと思っています。

でも現実、ただかわいいとか、愛おしいというだけで子育てはできなくて、それなりに問題もあります。一つは言葉で、うちに来たときは、「ああ、ああ」とか、ちょうだいの手を叩くことしかなくて、意思の疎通がうまくできませんでした。何とかお互い言葉でのコミュニケーションが図れるようにと働きかけをし、一言、二言は出るようになって、お互いに思いが通じ合うということは難しく、何もないところでよく転ぶし、落ち着いていないし、何か遅れがあるのかと一度は真剣に思ったこともありました。公園に遊びに行っても子供同士だとうまくいかなくて、欠落している部分がたくさんありました。父の具合が悪く介護ということもありましたが、同じ年齢の子どもたちからの刺激を受けるその中で成長させていきたいと保育園に入れました。保育園に入れたのは正解で、パパ、ママぐらいしか今年の初めには話せなかったのが、今では歌も歌えるし、口にガムテープを張りたいぐらいいろいろなことを話せるようになりました。子どもは、いろいろな刺激で伸びていくんだと、教えられることがいっぱいありました。

2年間娘と生活して、彼女のあるがままの姿を全部受け入れて、こちらが少し待つてあげて、安心した環境を作ってあげることができれば、それで良いのかなと思っています。日々娘と生活する時間を楽しんでいます。3年前に体験発表を聞いたとき、私は自信がなく、責任が重いように感じて、なかなか一步を踏み出せないで悩みました。でも新しい家族、娘がいてくれたことでいろいろ広がった部分があり、一步を踏み出してよかったと心から感じています。私たちなりの新しい家族の形態、できることを彼女に精一杯して全力でぶつかって、彼女が安心して過ごせる場所を作ってあげることができたら良いと思っています。私の発表で一步踏み出せる勇気を持っていただけたら幸いです。



20 一緒に住んで、ご飯を食べて・・・

【里母】

うちの家族は私たち夫婦と、5歳で里子のS君、実子の小3の双子の男の子の5人です。私以外全部男という本当ににぎやかな家です。S君は来て3年位になります。

里親になろうと思ったきっかけは、今から5～6年ぐらい前、丁度うちの子供が保育園年中の頃でした。小さいときは本当に大変で苦しい思いをして子育てをしましたが、手がかからなくなってきた、かわいくて仕方なくなると、世の中の子供の虐待というニュースがいたたまれず、子供にかかわるようなことをしたいなと思っていました。

私の仕事はフルタイムで、毎日朝7時半に出て帰りは7時ぐらいという生活です。土日はお休みですが何だかんだと忙しくて、何かしたいけど改めて時間をとるということはとても難しいと思っていました。里親制度をテレビ等で見て知っていたので、お兄ちゃんたちにできていること、一緒に住んで、ご飯を食べて、保育園の送り迎えして、お風呂入って、寝るときに話をして、土日は公園で遊ぶ・・・そういうことならできるんじゃないか、一緒に住むのはできるだろうと里親になりました。

初めてS君と交流を始めたのは2歳のお誕生日の頃でした。児童相談所の方から、発達が遅れているという話があり、当時S君は歩き始めたばかりでよたよたして、ほとんどお話ししないような感じでした。乳児院に会いに行ったのですが、第一印象はとにかくボーッとしたおとなしい感じで、歩いたりもまだ余りできなかったのも、周りの子たちは遊んでいるのですが、ぼてっと座ってミニカーをいじっているような感じの子でした。人見知りするでもなく、かといつてすごく人なつっこいという感じもなく、正直、この子があなたの里子になるかもしれませんと言われないとすごく印象が薄い感じでした。ただ、そのときにお兄ちゃんたちはそのS君を見て、「すごかわいい」「もうほんとにかわいい」と言い、実子の存在というのはありがたかったです。

S君がうちに来て交流を始めても、そのおとなしいという印象は全然変わりません。とにかくおとなしかったです。何をされても静かで、おもちゃを出したりとか、公園に遊びに行ったとしても、怖がりもせず、でも喜んでるのかなというのもよくわからないという本当におとなしい子で、こりゃ手がかからない、しめたという感じで、預かってもしゃんと気軽に思っていました。

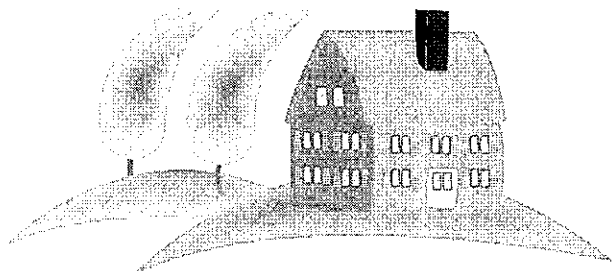
12月末に本格的にうちに来るようになって、それからが大変でした。急に人が変わって別人のようになりました。年頃も2歳ということで、いやいやという反抗期みたいなものもあったのだと思うのですが、何をやっても大泣きで、その態度の変わり方が私をすごく人間不信にさせて、子供なのに何でこんなにも変わるのだろうとパニックでした。家族全員に嫌ならしいのですが、嫌というのが私に対してだけすごく、お父さんにはなついていました。何をしてもパパ、パパで、私が抱っこしてあげると言っても逃げるし、もう腹が立つので無理やり夫から奪い取って抱っこしても、ものすごい勢いで逃げて行き、自分のプライドが傷ついていくのをすごく感じました。夫は私がキーンとなっていることを感じていて、随分フォローもしてく

れるのですが、夫が出かけていないときは、S君と私が2人になるというシチュエーションもあり、そのとき彼はずーっと玄関先で1時間でも2時間でも泣いていました。何とかして部屋に入りたいのですがなかなか出来なくて、とても辛い時期でした。幸い、保育園に預けていたので、先生から「状況がわからない、言葉で理解できないから混乱しているんじゃないかな」とか「お母さんよくやっているよ」と言われて、とても助けになりました。S君の送り迎えは私で、最初すごく辛かったのですが、時間をかけていくことで少しずつ打ち解けていきました。今冷静に思うと、少し言葉も遅いし、歩くのも遅いし、だからこそちゃんとしつけだけはしようと無理やり挨拶をさせたり、ご飯を食べる前にまず手をお膝にのせて等すごく細かい指示をしたので嫌だったのかなと反省しています。借りてきた猫のようだった時期は、彼なりに何とか新しい環境に慣れなきゃいけないと思って静かにしていたのだと今は、S君のことを理解できるようになりました。うちの夫はとにかく何でもやってあげる人なので、それでなついたのかなと思っています。

ドラマ「瞳」で、ご飯を食べたり一緒に寝たりという当たり前の生活が大事と言っていました。普通の生活をして3年ぐらいたって、時間が解決するということはすごく大きいなと思いました。思い切って里親になって良かったと思っています。

他に、S君が来ておふろをすごく怖がったり、声をかけると布団に入って一人で寝るという習慣がついていてびっくりしました。おうちとちょっと違うんだなと感じました。12月末にS君を迎えにいったとき夫が泣きながら帰ってきました。理由を聞くと、彼の荷物は紙袋一つで、中身は、乳児院の先生に買ってもらった本や洋服、クリスマスのプレゼントだけでした。お別れするとき担当の先生が全員集まってくれ泣きながら見送ってくれたので、うちの夫ももらい泣きをして帰ってきたのです。交流の時に着ていたかわいい服は乳児院の服で、先生が気に入られるようにといい服を選んで着せてくれていたようでした。辛いときも、施設の先生たちのためにも頑張らなければ、思いを受けとめなければと思っていました。今でもときどき乳児院には時間を作って行っていますが、皆さんも喜んでくださり、S君のルーツがそういうところでよかったなと思っています。

里親をやめようと思ったことも何度かありましたが、最近はほとんどやめたいなと思うこともなくなりました。小さい子がうちにいるのは幸せだな、このまま大きくならないでいてほしいなとも思いますが、それは叶わないことですので、このまま元気に成長してくれたらと思っています。



21 子どもと出かける楽しみ

【里父】

息子は高校1年生になりました。うちに来て、ちょうど来年の3月で10年になります。私達夫婦に子どもがいなかったの、子どもが欲しいとは思っていたのですが、自分の子どもでなければいけないという事ありませんでした。子どもを預かるというよりも、自分達に子どもができたみたいで非常に嬉しかったです。

色々なことがありました。名前については私たちの名前と本人の名前があり、学校に行く前に聞いたら、「自分にはちゃんとした名前があるんだから、自分の名前でやる」と言うので、事前に校長先生だとか担任の先生にお話をしご理解いただきました。うちは電話がかかってくると、「はい」としか言いません。相手先の様子で「はい、〇〇です」と子どもの名前を名乗ったり、自分の名前を名乗ったりと使い分けています。当初は、私達のことを「おじちゃん、おばちゃん」と呼んでいたのですが、「お父さん、お母さんと呼んだほうがいいんじゃない？」って言っても、「だって僕には本当のお父さんもお母さんもいるもん」と言われました。「あ、そうか」って、当然のことですがこちらも次の言葉が出ませんでした。妻が「おっとう」と「おっかあ」みたいにしようと言って、小学校4年ぐらいまで続いていたのですが、やっぱり格好が悪いと本人も思い直して、いつの間にか学校では「うちのお父さん、お母さん」とちゃんと言っていますし、うちでは「とうちゃん、かあちゃん」になりました。特に、うちに来てから2～3年ですが、普段はすごく元気で懐いている感じでしたが、何か叱られたりすると、ガツと固まっちゃいます。そうすると、何を言っても動かなくて、ひどい時は4時間位部屋の隅で動かなくなり手がつけられません。もう放っておくしかなくて放っていたんですけど、段々固まっている時間が短くなっていきました。今は、怒られると知らん顔して部屋から出て行きますが、自分で話題を変えて入って来るようになりました。余り気にしなくても何とかなるものだな、というのが実感でした。妻も結構忙しいのですが、PTAの役員やサッカーチームのサポートをしたりして、子どもの色々な事に関わっていくようにしました。私も学校の授業参観には殆ど出ましたし、イベントのスタッフにもなって一生懸命やりました。街でよく若い子に挨拶されるのでびっくりするのですが、よく考えたら子どものクラスメートだったということがありました。幼稚園の運動会では、皆でお遊戯をやっているのに1人だけ立ったまま動かず、「どうすればああいうことができるのか」と私達には理解できなくて、「これはまずいな」と随分ショックを受けました。でも5年生の運動会で、私達のすぐ前でにこにこして仲間と踊っている姿を見て、本当に涙が出て止まりませんでした。人に余り褒められたことがないんですが、「里親になってよかった」と感じました。

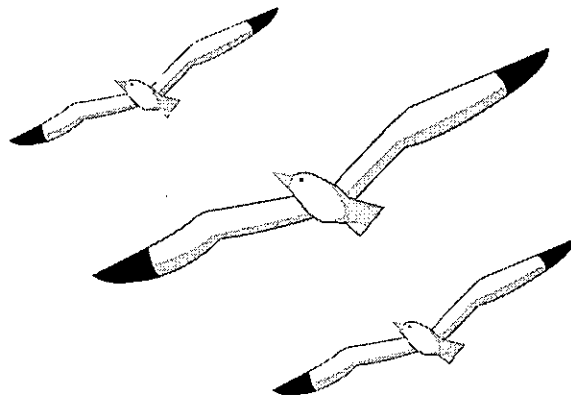
私はアウトドアが好きで、彼が来てからよく2人で出かけるようになりました。夏はキャンプ、山登り、冬はスキー、それ以外は釣りをします。休みの日は殆ど私とどこかへ出かけ、うちの中では妻とべったりしていました。彼が4年生の時に鳳凰三山に登りましたが、雨が降って山が静かになった時、私の先を歩いていた彼が何かを指さして、「とうちゃん！とうちゃん！」と言っています。顔がただごとでないのに熊でも出たかと思ひびっくりして近寄るとそ

こにカモシカがいて、こっちを見ていました。本当に手が届くぐらいのところにいたので、雨で濡れた毛皮の色の生々しさがわかりました。カモシカが立ち去るまでずっと見ていた時の彼の顔がもう最高で、私はそれに味をしめて、それからもあっちこっち連れて行きました。仲間には、「おまえ、子どもをダシにして遊んでいるんだろう」と言われます。まさにそのとおりかなと反省もしているのですが、本人も楽しんでいるからいいかなと思っています。

私達がなぜ里親になったかという、たまたま私達には子どもができなかったので子育てをしたいという気持ちが強かったのと世の中のために何かできることがあったらやりたいという事もありました。実際に里親になって大変なこともありましたが、本当に楽しいことがたくさんありました。彼がかなり難しい性格の子どもだったことは間違いないのですが、彼に起きた問題は常に自分達のことだと思い何とかして解決しよう、どうすればこの子のためになるだろうということを常に考えてやってきたつもりです。解決できないことはこれまではなかったと思います。ただ、私達の育て方が甘いので、妻が上で突き落としても、もう下でちゃんと私が待っているといった安全を確保したうえでチャレンジをさせてきてしまいました。最後のところでは血のつながりがない親である私達にとって、ここで手を放してしまったら本当にいなくなってしまうのではないかという不安が心の中にあるので、つい手が放れていくぎりぎりのところでつかんでしまいます。その辺りが私達の限界だと思います。

今振り返って考えると、私の人生観は変わったと思います。妻と私の二人暮らしで、自分が何をしたいのかということを常に考え、その方向に沿って行動し、あんまり人のことを考えたりすることは得意ではありませんでした。しかし、彼がうちに来てからは、まず第一に彼ありきで、そのためには自分はどうすればいいかを考えるようになり、その範囲で自分の欲求を満足させていこうということを考えるようになりました。

今まで感じられなかったいろいろなこと、些細なことにも感動できるようになりましたし、周りの人に感謝できるようにもなりました。この歳まであまり人にありがとうと言うことがなく生きてきたのですが、最近では、随分そういったことを感じられるようになりました。子どもに関しては、こちらが真剣になれば絶対に相手には通じると思っていましたが、それで押し通してきて、多分通じたんだろうと思います。解決できないことはないと思います。だから、そういうことでやれば里親は、夫婦2人だけの生活より何倍も楽しい生活ができると思います。



22 最初が肝心

【里父】

実子は22歳の長男をはじめ4人います。そして、里子として迎えたのが、今9歳の男の子と年長、年中の男の子、そして年少の女の子です。

養育家庭になったきっかけは、知人に勧められたのがはじまりです。新規登録研修では、養育家庭として失敗した経験を持つ里父さんの話を聞きました。子どもが、自分にとっていい人なら誰でもいい、自分の都合のいい人のところへどんどんいってしまっただけで里親に懐かないので、一旦子どもを戻したという話でした。私は、「えっ、預かった子どもを戻していいの」と少し驚きました。そのときは、それがどういうことか、深いことはわからなかったのです。しかし、この話を聞いたことが後に養育家庭としてとても参考になっていきました。

児相から1人目の子どもの紹介がありました。事情があって一度、養育家庭から施設に戻された子で、現時点では知能指数は知的障害域に入るとのことでした。「すぐに返事をしなくてもいい。少し考えてくれないか」というお話でした。

正直にお話すると、知的障害という言葉に少々ショックを受けました。養育家庭になり、自分も子どもとの出会いを楽しみにしていたわけですから、その運命的な出会いが知的障害という言葉と、そういう子どもが実際に我が家に入るのかという思いで一瞬迷いが生じました。しかし、もし自分の子だったら、これが知的障害だろうが、何だろうが、考えると考えないということは一切ないと思い、児相の方に、その場で「いいです」と答えました。児相の方は「えっ、ちょっと待ってください」と驚いていましたが、自分の気持ちはもう決めていました。

乳児院には子どもたちも連れてみんなで行きました。なかなかシャイな子で心を開かず、食事もろくにとらずにその日は面会終了になりました。しかし、残った食事がもったいないなと思って、私がきれいに食べたのです。それがちょっとシスターに受けまして、乳児院の職員とも子どもともそれからさらに仲良くなりました。

その子が我が家に来ると、もうかわいくて、抱きしめると「チュッ」としたくなります。仕事から帰れば寝顔を見に部屋をのぞいたりするような状況が続いて、1つ上の三女にはやきもちを焼かれたような気がします。今、4人の子どもを養育していますが、養育家庭のスタートであったこの出会いが大切だったと思います。最初が肝心です。最初が上手くいけば、あとはスムーズです。

次に迎えた3人はきょうだいで、それぞれ別の施設で暮らしていました。まず初めは、年中の子が1歳のときに交流を開始しました。施設にはないあたりまえの雰囲気を味あわせようと、スーパーに買い物に連れて行きましたが、その子にはこれがとても受けました。私はごく自然体でただ「来なよ」という感じでしたが、それがうまくいったようでした。1人目、2人目はそんなに大したことはなかったのですが、ただいたずらのスペシャリストになり、すべての物を引き出しから出すなど、これには辟易しました。次は、年長のお兄ちゃんがやってきました。都合のいい人なら誰でもいいというタイプで、今でも目が離せません。そして一番下の女の子です。この子はしゃべらず、ろくに歩けずということでしたが、そんなことはどうってことな

いなと思いました。最初の知的障害という言葉でショックを受け、実際に子どもを迎え入れて上手くって、本当に腹が据わりました。しかし、受け入れの時期についての考えが甘かったです。私は夏に忙しい仕事をしています。夏休みになった途端に、疲れが出ました。子どもたちはぎゃーぎゃー騒ぐし、自分もパニックのようになりました。しかし、9月1日には保育園にうまく入りました。

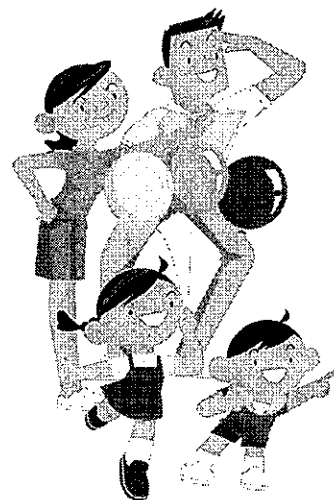
保育園は、実子もみんな同じ保育園でしたから、歴代の園長とも知り合いです。それだけではなく、今まで自治会、PTA、地域活動をしてきたことが非常に役に立っています。PTAをやっていると情報も入り、自分の勉強にもなります。

最初の子が、うちへ来てから一番最初買ったのが、お祭りのひょっとこのお面です。小さいころから踊りが好きで、小学校に入ってから近くのお囃子に入りました。地元は田舎なので、地域みんなが子どもを見ています。ありがたいなと思います。そして、お祭りのお囃子というのは小さい子から90歳ぐらいまで一緒に練習をします。年の違う者が一緒に何かをやるという姿がとってもいいのです。そういう環境を地域の方々とともに大事にしていれば幸せかなと思っております。子どもは本格的に練習をはじめ、人前で踊るようになり、各市の地元のお祭りでどんどん踊り出して、引っ込み思案だったその子にすっかり自信がつけました。今は学校の帰り道で、踊りながら帰ってくるということで有名になっています。

また、行政の支援もあります。もちろん、100%ではありませんが、大いに利用していかなければいけません。自分一人で養育することは大変ですが、制度をよく勉強して、有利に使うことも大事だと思います。

人様の子どもを預かるわけですから、当然大変なこともあります。下の3人は熱性けいれんを起こすので、すぐ救急車をに呼ばなければならない時もあり、そんなときは大変です。処方された薬を医師の指示通りに服薬させなくてはなりません。

いま私は、養育家庭といっても特殊な目で見ないでほしいと思っています。子どもに親がいないという背景があっても、「それがどうしたの」、「だから何」とと思っています。親がいようがいまいが、自分の出生も生い立ちも何もかもが、捉え方によって「人生の糧」になると思っています。里子たちが立派に自立し、かつての自分と同じような境遇の子どもたちを助ける側になれば、里親である私たちの目的を達したかなという思いでいます。今より、18歳過ぎてからが勝負だと思っています。



23 ママと呼んでくれた日から

【里母】

私は去年のちょうど今ごろから5歳の女の子を預かって娘と二人でお世話をしています。

里親制度に興味をもったきっかけは、いくつかの要因が重なっています。まず一つ目は、私が幼い頃、洋裁上手な母が着られなくなった洋服をふろしきに包んで母親の背よりも高い柵のある施設に私の手をひいて何度も行ったことがありました。小さな子どもたちが十数人できて、こちらに興味津々に見ていました。そのことが私の心の中に焼き付いています。小学校5年生の頃は、学校に“施設の子”と呼ばれている集団がいました。お互いに積極的に交わろうとはしなかったのですが、ある日、施設の中に誘われて行ったことがあり、理科室のような大きな机の上で私のために一生懸命、字を書いてくれました。翌日、日記に「あの子はすごい！」と書いて先生に提出した記憶があり、その頃には私の心の中の柵はなくなっていました。また、アメリカに住んでいたことがあり、そこには世界各国からいろんな子ども達が養子縁組で養育されており、そのような家庭をいっぱい見てきました。最後に、娘が成人し、どちらかというひざが寂しくなったというのが一番の理由なのかもしれません。

児童相談所から5歳の子を紹介され、最初この制度に対し不安を持っていた娘も会ってみると「かわいい。小さい。」と抱き上げて大喜びしていました。私は、フルタイムで仕事をしており、とても忙しい時だったのですが、会社の方も私が育てる環境というのを用意しようという体制になってくれました。また、児童相談所の方もすぐに保育園を用意して下さり、私が働きながら子どもを育てる環境をつくって下さいました。ですので、すぐ始動・開始することは可能でした。

来たばかりの頃は私のことを何と呼べばよいか非常に迷っていたみたいですが、娘が私のことをママと呼ぶので、その子も数時間でママと呼び出しました。その上まだまだ柔軟で「生活しているから仲間だよ」と同じ姓を名乗るようになり、これには我々も本当にびっくりしたところでした。

受託して2ヶ月もすると少々しんどいかなと思う時期もありました。もう娘も成人していたので、その子が来てからは朝の時間がとくに慌しかったです。しかし、その生活に慣れてしまえば後は本当に楽しいばかりでした。

私達がこの子を預かる約束事として、実母さんと毎月面会させることが前提にありました。でも、育てていくとだんだん会わせたくない気持ちが出てくるのが本音です。受託して少したったころ、その子が言ったんです。「お母さんと呼んでここ(里親宅)で暮らせないか。お母さんと別れたときは小さかったから手伝うことができなかった。でももう大きくなった。私のお母さんも大事だし、新しいママ(里母)も兄弟(里親の実子)も大事なんだ。」戸惑いながら、その子の気持ちを受け取り、児童相談所に相談し、今はここで一緒に暮すことはできないことを伝えました。彼女は、「残念だな」と言ったきり、それ以来私に交渉しなくなりました。普通の子なら泣くであろうに、やっぱりよっぽど悲しいから言葉にできないのかなと思ってしまいました。

その時から私は、ぽかぽかの太陽に徹しようと思いました。それからもう一つ、私も実母さんもこの子につながる両腕のような存在でいようと思いました。

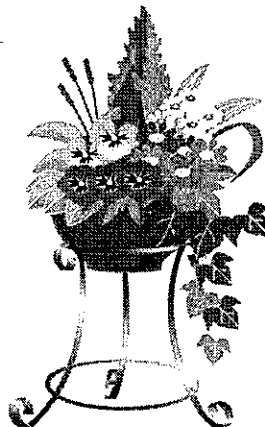
私自身が悩んだことは、里親の価値観で長く生活をする実母のもとで苦勞するのではないかということでした。しかし、保育園の先生に相談したところ、「いろんな人間がいろんな価値観で子どもに接しているんだから、その中で子どもが取捨選択していくのだから大きく間違っていなければそれは構わない」と言ってくださりほっとしました。

うちにきた女の子は非常に賢くて優しい子ですが、時々大きな傷が残っていることを感じます。保育園でお友達に蹴られたりしても言葉に出して抵抗できません。それどころか記憶の塗り直し行為で良い思いでにすり変えてしまいます。また、自傷行為もあり、自分で無理やり鼻血を出してしまいます。私は、まずは信頼関係をつくろう、愛されていることをちゃんと知ってもらおうと余り厳しく言いませんでした。今では、自分から嫌なことは嫌と言えるようになり、自傷行為もほとんどありません。

時々彼女のために、何をやってあげれば、いつか私から離れて、日本中どこにいたとしても、どういう環境でも食べていけるようになるのか、私が母から教育を受けたように私も子どもに還元していかなければならないというふうに思っています。しっかりとした教育を与え、しっかりとした肉体を与え、自分の気持ちをコントロールできることを態度で教えてあげたいと思っています。

この子を育てながら、本当に思うのは、育てているというより、どちらかというと私も娘もこの子から育てられているというのが本当のところだと思います。彼女から与えられたものは計り知れません。

養育家庭として、子どもを預かり大人だけの生活から一遍しました。バランスのとれた食生活をおくるようになり、忙しく仕事をしていると見落としがちな季節を、遊びながら感じ、年をとるのもその子の成長を感じる喜びにかわります。また、実子を育てていたときには気がつかなかった近所の人のおしかりの意味や励ましの言葉のありがたさ、子育てをもう一回させていただくことで理解させてもらいました。このようなチャンスを与えていただいたので、この子を立派に育てあげ、この子がまた社会に還元していけるような良い循環を作り上げることができたらいいなというふうに思っています。たくさんの人に参加していただき幸せな家族をいっぱい作っていただきたいと思います。



24 夫婦で仕事・夫婦で子育て

【里父】

うちは共働きで、私は小学校の教員、妻は幼稚園の教員をしています。

私たちは 学生のときから実習などで児童養護施設へ行くこともあり、施設との交流の中で、養育家庭という制度があることは随分前から知っていました。自分たちがそういうことをやることは、考えたこともありませんでしたが、なかなか実子を授からなかったこともあり、妻と話しあいました。では里親をやろうじゃないかという話になったのが4年半くらい前で、それから児童相談所に相談に行きました。

その年の8月に養育家庭の研修を受けてから、すぐ今の上の男の子の紹介を受けまして、8月から12月まで、乳児院で毎週日曜日に交流をしていました。その途中で一回、うちへ試しのお泊まりをただけで、次にはもう、長期外泊という形で受託に踏み切りました。それから、もうかれこれ4年で、今はもう、小学校1年生になります。

2番目の子どもも男の子で、もうじき3歳になります。その子とはことしの4月の終わりから交流をしまして、夏休みの中ほど、8月の10日過ぎに長期外泊に入って、やはりそのまま委託という形になりました。今、うちに来て3カ月ちょっとになるところです。

下の子は、乳児院で交流をしていたときはとてもおとなしい子だったんです。しかし、うちに来てみたら、後追いかもなかなかすごくて、「パパ、パパ、ママ、ママ、これなに、これなに」とか、気に入らないことがあるとはっきり「いやだ!」、それがかなわないと、大きい声で「うわっ」と泣いたりします。おとなしい子だと思っていましたが、そうじゃないのかなと思いつながりながら、3カ月がちょっと経ち、少し落ちついてきたかなというところですよ。

やはり2人いると、今まで1人でいた上のお兄ちゃんのほうにも変化があって、今までは自分のほうに100%愛情が注がれていたわけですけども、そういうわけではなくなったことで、すねたり、わがママを言うようになったり、寝るときなんか妙に甘えてピタッとくっついてみたりということがあります。

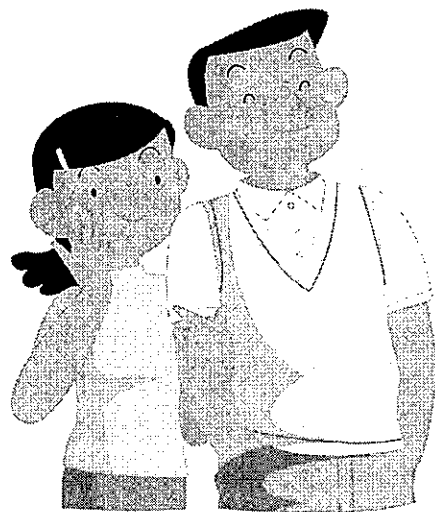
うちの場合、夫婦とも働いているので、お預かりするには子どもを保育園にいれなければだめでした。児相のほうからも区の保育課に連絡をしていただき、まず認証保育所に行きまして、そこから区立の保育園に何とか通わせていただいております。2人を預かって日々奮闘しているというところかなと思います。

共働きですと、どうしても夫婦で協力していかななくてはいけないことがたくさんあります。お互いに同じような仕事しているものですから、結構同じような時期に忙しいんですね。土日に発表会やらの仕事が入ったり、私のほうは試合の引率とかが入ることもあります。お互いにそういうところはスケジュールのやりくりをしています。また、2人の子どもの送り迎えや、そのほかの食事づくりや洗濯、そういう家事についてもお互いにできるほうで分担していくということがどうしても必要です。その分、子どもたちをお休みの日には、あまりいろんなところに引き回さず、家の近くでゆっくり過ごさせるようにしています。近所の公園に行ったり、図書館に行ったり、一緒に買い物に行って、ああだね、こうだねと話しあったり、そういう生

活ができるように心がけています。私たちにとっては、二人とも宝物のような存在でいてくれるのかなと思っています。

自分たちも子どもに関する仕事をしているということもありまして、2人の子どもを育てることで、学ぶことがたくさんあると思いました。何年か子どもと過ごしてみて、パパと呼んでくれることや、一緒に遊ぼう、遊ぼうとすごく慕ってくれることが、こんなにうれしいものなのかというのが初めてわかりましたし、また、私も大人げないのですが、子どもが言うことにむかっときたりすることがしょっちゅうあります。そのときにどういうふうに関係をつけていったらいいか考えることがあります。妻のほうはさすが本職で、小さい子を相手にしているのですごく上手だったりするんですね。そういうところでお互い夫婦での話し合いも密にするようになりました。

2人とも、長期の委託ということでお預かりしていますが、今、少し気になっていることは思春期がどう出てくるかは全く分からないということです。しかし、それは多分、実子で育てていた場合でもそうだと思いますし、少し気楽な気持ちでいたほうがむしろいいのかなと思っています。里親を始めてから4年しかたっていませんが、やはり施設で育つ子どもと家庭で育つ子どもでは、随分違いが出てくることを目の前で見てきました。育てている2人の子どもたちにも、精神的な強さをつけてあげられる里親でありたいなと思っています。それにやはり、健康と体力が一番だと思うので、それを失わないようにしっかりやっていきたいと思っています。2人の子どもたちにはいつも支えられているので、ぜひ皆さんも機会があったら養育家庭になっていただければと思います。



25 一緒に幸せになろうね！

【里母】

まず私どもが里親になったきっかけですが、私どもの住んでいるマンションに未婚で出産した17歳の女の子がおりまして、産んだ当時は母性があったのですが、だんだんそれが消えてしまいました。その段階でほとんど面倒をみなくなっていたので、週の半分くらい我が家であかちゃんの面倒をみていたんです。その時にちょうどテレビで里親さんの物語がありまして、見ているうちに私でも里親になれるのかなと思ひまして、児童相談所に電話をいたしました。

養育家庭を始めたいことを中学生の息子に話したところ「いいんじゃない」と了承を得ることができまして、それじゃということでそのまま養育家庭になりました。養育家庭になって1ヶ月くらいしたころに、小学1年生の男の子を短期で預かるお話をいただきました。母子家庭のお子さんでお母さんが怪我で入院するとのことでした。お預かりしてみるとなかなか大変なところも多いお子さんでしたが、お返しするときは本当に寂しい思いでいっぱいでした。

それから1年後に、その子のお母さんから「お父さん、お母さん元気かな、お兄ちゃんは野球をしているかな」とたまに話しているというメールをいただきました。たくさん怒っていたのにそんなふうに言ってくれているんだ、うれしいな、ありがたいな、また里親になってよかったなと思いました。

その後、しばらくして現在預かっている子どものお話をいただきました。その子は本当に人見知りが激しくて、片時も乳児院の保母さんとはなれることがなく、言葉も発しないような子どもでした。徐々に面会をしていく中、今度は私に馴れてくると、もうべったりでずっと抱っこで下ろさせてくれません。そんな状態でしばらく施設に通いました。そして交流を重ねて長期外泊という時期を迎えました。私も実子を一人育てていますが、うちの子（里子）は産まれてまもなくから施設でそだっており、一般家庭を知りません。家庭では、手の届くところに色々なものがあるので、スイッチの入った炊飯器に手をかざそうとしたり、勝手にコンロの火を小さくしたり大きくしたり、包丁を使っているのを真似て自分も使ってみたり、びっくりするようなことがたくさんありました。今までは危ない経験をしたことがなかったので全てに手をだそうとするのです。ですので、一つずつ「これは熱いのよ、これは痛いだよ」と説明していきましたが、まだ興味の方が勝つということで熱いながらも手をだしたりしていました。私の中では2歳7ヶ月だったら言うて分かるだろうという感覚があったのですが、でも彼にとってはそれが産まれてはじめての体験でした。その当時は赤ちゃん用のストッパーをつけたりしていましたが、知恵は2歳7ヶ月で、そのストッパーをきれいに外して中身をだし、またきれいにとめているんです。たまに私が止め忘れると「お母さん、忘れてるよ」と指摘してくれるようになりました。

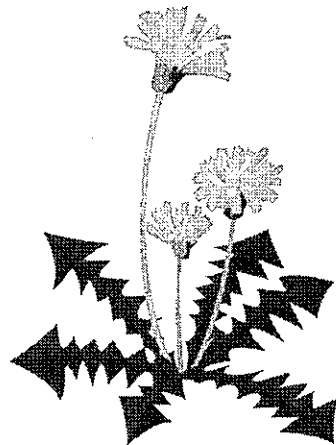
また、本当に驚いたのが、うちの子は人にはそれぞれお家があることを知りませんでした。施設の中で職員の方はみなさんどこかに出かけて帰ってくるのです。自分はずっとそこにいますからそういう感覚しかなかったのです。ですので、私のお友達の家に行かせていただいて「ここがこの人のお家なのよ」ということを教えていきました。そのときに感じたのは、施設

で育った子どもたちは、何もじぶんは悪くないのにそういう環境で、そのような感覚で育っていく。そのまま大きくなった時に少しずつずれていくというのは仕方がないのだろう。でもそれは彼らの責任ではないということを痛感いたしました。

そのようにしながら彼は知らないものを少しずつ吸収し、家にきてもうすぐ1年8ヶ月。やっと1歳8ヶ月くらいの社会性が身についてきたのかなという思いです。

実子に関しては、やはり14年間、一人っ子でそだってきましたので、11歳離れていてもやきもちがあります。例えば下の子に洋服を買ってくると「〇〇だけ2枚も買ってもらって」とか、14、15歳の子どもが言うことかなと思うようなやきもちがあったりします。反抗期なのでストレートには出さないのですが、ちらちらとだしています。私どももとりあえず下の子に2枚買ったなら、上の子にも1枚買ってくるというような方法でやっております。でも、だんだん、上の子の中にも弟がいる感覚が芽生えてきているなという風にとらえてきています。今でも毎日羽交い締めにして、弟を泣かせて鍛えておりますけども、兄弟として、ちょっとやきもちをやきながらも、2人とも成長しているように感じています。またおじいちゃん、おばあちゃんに関しましても、上の子はもう中学生で話してしてくれませんが、突然やってきた小さい孫に「おじいちゃん」「おばあちゃん」と来られて本当に可愛いという感じです。

これから先もこの子と一緒に幸せに暮らしたいと思っていますが、幸せはつくってあげるべきものではないですし、また一人だけで作れるものでもありません。施設から子どもを引き取ってくるときに担当した保母さんが子どもに「幸せになってね」と言ったのですが、私も主人も何も答えられませんでした。本当にわたしたちのところに来てこの子は幸せなのかな、と思ったのです。その時、私は幸せにしてあげるよ、というのではなくて一緒に幸せになろうね、だから子どもと「一緒にがんばろうね」というふうに保母さんには答えました。忘れてしまいがちなのですが、たまに思い出して、一緒に幸せになろうね。お兄ちゃんと4人で幸せになろうね、という形でこれからもやっていきたいと思っています。



26 離れていても幸せに

【里母】

今日は、Y（元里子）と一緒にきてくれました。とても勇気のいることなので、私は、その勇気をとても嬉しく思っているのですが、Yは初めてこういう場に出てきて、今カチカチの状態ですので、Yには最後にまとめをしてもらおうと思います。

まず、私どもの家庭は、私と夫、Y、10歳になる養子縁組の男の子、それからこちらも里子でもう（養育家庭）解除になっておりますが、勉強が好きで、栄養士になりたいという目的を持って学校に通っている19歳の女の子。あと短期で、13歳のA子という女の子を預かっているそんな家庭です。

私どもが里親になったのは、制度に何かしらの縁のようなものを感じたところがあったのかもしれません。実子を1人産んだ後、2人目の子供を望んだのですが、なかなか授かりませんでした。そんな時にこの制度を知ったことは、どこか神様の縁のようなものがあったのではないかと思います。無理をして2人目の子どもを望むよりも、なにか縁にひかれるところがあったのかな、と思います。また、動機という面で考えると私の母は非常に人が好きな人で、田舎の実家にはいつもたくさんの人が関わってにぎやかでした。そんなところで生まれ育ったので、私も人と触れ合うことが大好きというのが基本になったのだと思います。そういったことでこの制度に心が動いたところがあるのかなと思っています。

Yとは2歳の終わりに会いまして、幼稚園の間ずっと一緒に生活をしました。その間、この子を里子として預かったというよりも、いつの間にか、毎日の生活の中で、実子と全く区別がない生活をしていました。今思うと、本当に知らないうちにそうになっていたんですね。

そうして、Yが幼稚園卒業のとき、実の親御さんの環境が整いまして、親元に戻るようになりました。戻った後、この子を手放した後に、私は本当に多くのことを学んだと思います。寂しかったです。この子がこんなに私の中で大きな存在になっていたのかと、本当に驚くほど私はこの子を愛していた、2歳半、3歳、4歳、5歳、6歳の約4年間ですね。この生活で私の一部になっていたことを痛いほど知りました。そんなときに、私はあの子が暮らしている場所で幸せでいてほしいと心から願いました。その願いの中で、私はいろんなことを学んだように思います。その時には、そういったことがうまく説明できなかったのですが、私の大好きな本にとてもうまくその気持ちを説明しているものがありました。この本ご存知ですか。【いのちはつながっている 著くさばかずとし】沖縄ではお盆とかに家族がみんなお墓の前に集って、楽しくおしゃべりをする習慣があるのですが、自分の上にはご先祖様のたくさんの命がつながって、自分が生まれたということが書いてある本です。君の上にはお父さん、お母さんがいて、その上にはまたお父さんお母さんがいて全部で8人。1、2、3、4代前では100人はいるかな、いやその前にはもっともっとながっているよ、こんなにつながつて、君の命がこの世に生まれてきたんだよ、というお話なんですね。こう考えると、やっぱりどこにいても、誰とでもみんな1つにつながっているのかなと。だからそんな気持ちでこの子を愛したように、この子が遠くにいても元気でいてねと空を見上げるとつながるんじゃないかと。この子と生活した

ことで私は血を超えた愛情のようなものを自分の中で確認でき、それが私の財産になりました。とても大きな財産です。

残念なことです。その後、Yは実親との生活が困難になり、もう一度、私たちはこの子と出会うことになります。そのときにYは東京都を離れていまして、ほかの県から里子としてYを委託するというのは、非常に行政的に難しいものがありました。ですが、そこをあえて子どもの望みや、幸せや、安定を考えて行政の方は踏み切ってくださいました。本当にありがたいことだと思っています。ですが、その当時は、なかなか制度が追いつかず、やはり医療受診券のことや、子どもの保険（自賠責）などのことでは、本当に不自由なことがたくさんありました。今はこういったことがどんどん変わり便利になってきました。

また、先ほど所長さんが「この地域には4つの学校があるから最低4つは養育家庭が欲しい」というお話をしていたんですけれども、私もそのとおりだなと思いました。今、13歳のA子ちゃんを短期でお預かりしています。もともと期間の限られた委託の予定だったのですが、お子さんの家庭の事情で少し長くなってしまいそうということで、私はそのお嬢さんをそれ以上長く引き受けることができません。というのも、10年間、家で暮らしていた子どもが、結婚をして出産をすることになり、出産前後にうちに来て赤ちゃんの育て方をママに教わりたいという話を以前からしていました。そんな時に「短期で」とA子ちゃんのお話しがきたのです。お勉強をしなければいけない時期のお子さんですので、新生児がいる環境では落ち着かないということで児童相談所の方も親御さんのところに戻れないということがわかってから、いろいろ里親さんを探してくださったと聞きました。でも、結果的には施設のほうに行くことになりました。施設も職員の方たちが本当に一生懸命にやってくださるし、決して悪いところではないと十分わかってはいるのですが、長い目で見ると、できればやっぱり普通に家庭の中で暮らしてくれたらどんなにいいかなと考えます。

私が台所にいると、「お手伝いすることありますか。」とそばに来てくれるA子ちゃんを見ると胸が痛くなってしまうんですけれども、もしもここでこの地域、彼女が通える範囲内に里親さんがいたならば、彼女はこの土地を離れて違う区に行くことはないと思います。

子どもにとっては、とにかく親元で暮らすのが一番です。親元にかなうものはないと思っています。ですが、それができないときには、できれば家庭、またお父さん、お母さんと呼べるような家庭に送り出せたら、どんなに私の心は今と違うだろうと思っています。

今日、Yと一緒に来てくれたのも、そういったA子ちゃんのことが娘の心を動かしました。できることなら、この制度に少しでも理解をしていただいて、里子が暮らしやすい地域、それから、できれば仲間になっていただく方が1人でも2人でもふえていくことで、子どもたちの生活環境がどんどん変わっていくことになります。

人一人の人生が変わるってすごいことだと思います。そのお手伝いができる里親制度というのは私たち里親にとって、とてもすてきな制度だと思います。産んでもいない子どもたちに「お母さん」と呼ばれた瞬間に、私の心はお母さんになるんですね。お母さんと呼ぶ子どもの声が私自身を成長させてくれるなというのをすごく感じています。離れていても元気かしらとか幸せでいてほしいと願える人、心から思う人がたくさんふえている、というこの現実、これからの私の人生をも豊かにすると確信をしています。

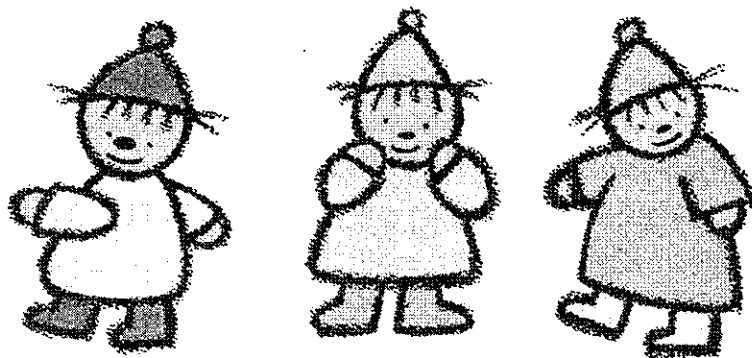
短期や、フレンドホームなど、ショートのリ親でも、きっとお互いに学ぶものが多いという

のは実感しているのでお勧めです。ちょっとでもいいから2、3日預かって、親戚の子どもが来た、みたいところから入って、自分のペースや無理のない形で広がっていけばいいと思っています。今日は、A子ちゃん一人のことを言いましたけれども、東京都内にたくさん養育家庭があったら、また人生が少し違うだろうな、という子どもさんがたくさんいると思いますので、ぜひお仲間になってください。また里親の仲間は、人生をともにする同志みたいなところがあり、私はたくさん出会うことができました。

では、里子の立場からYちゃんが、自分がここに来て一番伝えたいと思うことをちょっと書いてきましたので替わります。

【元里子 Yさん】

私は、里親家庭で生活してきましたが、家庭の温かさを知るとはとても重要なことだと思うので、里親がふえてほしいと感じています。家庭を知らずに社会に出て子どもを持ち、親の立場になったとき、子どもをどう愛していいのかわからず困惑してしまうこともあると思います。そういう子どもが大人になって、子どもを持ったとき、子どもをまた手放してしまうというケースが実際にあります。1人でも多くの子どもたちが本物の愛を知るためにも、里親家庭がふえ、そしてこの日本という社会で特別の家庭と見られることがなくなってほしいと感じています。



平成20年度 養育家庭体験発表会 参加者数

開催日	開催場所	講演会 講師名	担当児童 相談所	参加人数				
				養育家庭・ フレットホーム	区市町村	民生・ 児童委員	一般・ その他	合計
6月3日	羽村市役所会議室		立川	10	5	14	15	44
8月26日	文京シビックセンター(南北線春日駅、丸の内線後楽園駅)		センター	0	22	15	10	47
9月8日	昭島市児童センターぱれっと2階集客室(JR青梅線昭島駅)		立川	7	3	4	6	20
9月20日	狛江市中央公民館(小田急線狛江駅)		世田谷	1	5	14	6	26
9月25日	江東区東陽区民館(東西線木場駅)		墨田	5	7	0	14	26
9月25日	多摩市立健康センター(京王線聖蹟桜ヶ丘駅)		多摩	2	2	0	34	38
10月2日	東大和市役所会議棟2階(西武拝島線東大和市駅)		小平	14	3	0	6	23
10月3日	町田市市民フォーラムホール(JR横浜線・小田急線町田駅)	村尾康弘	八王子	6	14	41	87	148
10月3日	国分寺Lホール(JR中央線国分寺駅)		小平	5	6	0	9	20
10月8日	武蔵村山市役所4階中部地区会館401大集会室(西武拝島線東大和市駅)		小平	8	4	6	0	18
10月9日	赤羽文化センター(JR京浜東北線・埼京線・宇都宮線・高崎線赤羽駅)		北	0	1	0	20	21
10月10日	台東区生涯学習センター(日比谷線入谷駅、つくばエクスプレス浅草駅)		センター	0	6	21	42	69
10月10日	立川市女性総合センター・アイム5階第3学習室(JR中央線立川駅、多摩都市モノレール立川北駅)		立川	4	4	6	14	28
10月10日	足立区こども家庭支援センター(千代田線綾瀬駅)		足立	4	8	8	9	29
10月15日	千代田区富士見出張所区民館(JR総武線飯田橋駅)		センター	0	5	16	6	27
10月16日	日野市役所5階505会議室(JR中央線日野駅)	宮島 清	八王子	7	9	7	37	60
10月21日	東久留米市役所1階市民プラザ(西武池袋線東久留米駅)		小平	9	4	12	16	41
10月23日	西東京市住吉会館ルピナス(西武池袋線保谷駅)		小平	9	5	9	8	31
10月25日	清瀬市児童センター会議室(西武池袋線清瀬駅)	宮島 清	小平	7	4	0	14	25
10月25日	稲城市地域振興プラザ4階(京王線稲城駅)		多摩	2	4	9	14	29
10月28日	東村山市役所市民センター(西武新宿線久米川駅)		小平	6	4	10	12	32
10月29日	中野区勤労福祉会館(JR中央線・東西線中野駅)		杉並	2	20	1	16	39
10月31日	東青梅センタービル3階会議室(JR青梅線東青梅駅)		立川	6	5	21	13	45
10月31日	三鷹産業プラザ(JR中央線三鷹駅)	庄司順一	杉並	2	27	1	11	41
10月31日	調布市文化会館たづくり8階映像シアター(京王線調布駅)		多摩	4	12	3	14	33
11月5日	中央区役所会議室(有楽町線新富町、日比谷線築地駅)		センター	1	4	2	27	34
11月6日	コア・池袋(豊島区民センター)音楽室(JR山手線池袋駅)		センター	2	19	13	55	89
11月7日	児童養護施設東京サレジオ学園集客室(JR中央線国分寺駅)		小平	8	4	0	6	18
11月8日	江東区南砂子ども家庭支援センター(東西線南砂町駅)		墨田	5	6	0	15	26
11月8日	杉並児童相談所(JR中央線・丸の内線篠荻駅)		杉並	6	16	14	16	52
11月8日	品川区立中小企業センター2階大講習室(JR京浜東北線大井町駅、東急大井町線下神明駅)		品川	3	4	42	12	61
11月10日	武蔵野市中央コミュニティセンター(JR中央線三鷹駅)		杉並	6	12	1	20	39
11月11日	江戸川区総合文化センター(JR総武線新小岩駅)		墨田	0	0	45	35	80
11月13日	男女平等推進センター(ウイメンズ・パル)多目的ホール(京成線お茶屋駅)		足立	9	13	15	22	59
11月14日	大久保地域センター(JR山手線新大久保駅、都営大江戸線東新宿駅)		センター	0	6	40	16	62
11月14日	府中市ふれあい会館(京王線府中駅)		多摩	1	9	21	30	61
11月15日	板橋区立グリーンホール(都営三田線板橋区役所前駅、東武東上線大塚駅)		北	1	0	0	13	14
11月15日	大田区役所2階会議室(JR京浜東北線、東急多摩川線、池上線蒲田駅)		品川	3	1	43	9	56
11月17日	町屋文化センター(千代田線・京成線・都営荒川線町屋駅)		北	4	4	0	14	22
11月19日	あきる野市中央公民館第6・7研修室(JR五日市線東秋留駅)		立川	9	4	8	20	41
11月25日	八王子市クリエイティブホール5階(JR中央線・京王線八王子駅)	加藤尚子	八王子	10	16	6	63	95
11月28日	赤坂区民センター(銀座線赤坂見附駅、青山一丁目駅)		センター	0	4	17	22	43
11月28日	狛江市役所4階特別会議室(小田急線狛江駅)		世田谷	2	7	4	14	27
11月29日	目黒区役所総合庁舎1階E会議室(東急東横線または日比谷線中目黒駅)	大場尚子	品川	4	2	24	14	44
12月6日	世田谷区役所第3庁舎3階ブライツホール(東急世田谷線松陰神社前駅)		世田谷	6	15	47	24	92
12月8日	練馬区役所交流会場(西武池袋線練馬駅)		センター	1	7	3	49	60
1月26日	渋谷区役所A会議室(JR山手線渋谷駅)		センター	2	4	11	22	39
1月26日	府中市グリーンプラザ(京王線府中駅)		多摩	0	13	2	30	45
1月29日	小金井市前原暫定集客施設A会議室(JR中央線武蔵小金井駅)		小平	9	4	1	15	29
2月5日	墨田区役所12階会議室(銀座線・都営浅草線浅草駅)		墨田	4	5	0	33	42
2月5日	国立市子ども家庭支援センター(JR南武線保谷駅)		立川	1	10	0	11	22
2月19日	瑞穂町子ども家庭支援センター		立川	2	2	9	9	22
2月23日	福生市商工会館		立川	4	8	13	8	33
3月3日	多摩市立健康センター(京王線聖蹟桜ヶ丘駅)		多摩	0	3	1	30	34
合 計				223	391	600	1087	2,301

平成20年度養育家庭体験発表会アンケート結果

質問	6/3 羽村	8/26 文京	9/8 昭島	9/20 狛江	9/25 江東	9/25 多摩	10/2 東大和	10/3 町田	10/3 国分寺	10/8 武蔵村山	10/9 北	10/10 台東	10/10 立川	10/10 足立	10/15 千代田	10/16 日野	10/21 東久留米	10/23 西東京
年齢 ～20代	0	1	0	2	0	0	2	48	4	0	0	3	3	2	0	5	0	1
30代	0	1	1	0	1	5	2	5	2	0	4	1	0	1	0	6	1	3
40代	2	6	1	2	2	4	1	13	0	0	6	5	0	6	3	11	2	5
50代	10	7	5	2	3	10	3	20	0	1	1	8	5	5	4	10	3	3
60代～	10	8	1	13	4	7	4	22	1	6	9	34	5	3	13	6	8	4
不明・無回答	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
性別 男性	4	7	1	5	3	1	4	28	1	1	2	15	0	3	6	8	1	0
女性	18	16	6	12	7	25	8	78	6	5	18	33	13	13	13	29	13	16
不明・無回答	1	0	1	2	0	0	0	3	0	1	0	3	0	1	1	1	0	1
所属 養育家庭	2	0	3	0	1	1	6	5	0	0	0	0	2	2	0	5	0	0
フレッドホーム	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0
都職員	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0
区市町村職員	2	3	0	4	0	0	0	8	1	1	2	0	1	0	1	2	0	3
民生児童委員	11	11	0	12	0	0	0	26	0	6	0	18	6	0	16	0	7	5
主任児童委員	2	3	4	0	0	0	0	4	0	0	0	2	0	6	0	8	0	3
学生	0	0	0	0	0	0	2	47	3	0	0	1	2	1	0	3	0	2
一般	3	3	1	3	4	20	1	14	3	0	15	9	2	4	3	12	3	2
その他	2	1	0	0	5	4	1	4	0	0	2	17	0	2	0	8	3	1
不明・無回答	0	1	0	0	0	1	1	1	0	0	0	4	0	0	0	0	0	1
どこで、この体験発表会をお知りになりましたか？（複数回答可）																		
区報・市報で	14	8	3	7	6	10	1	17	1	2	2	17	2	1	10	11	3	6
都報で	1	2	1	4	0	0	2	3	0	0	9	10	1	1	4	1	1	1
ポスターで	0	1	0	0	0	0	0	5	0	1	0	5	0	1	0	0	2	0
チラシで	4	7	1	7	1	1	3	20	0	2	0	14	3	8	4	16	5	5
インターネットで	0	0	0	0	0	2	0	2	2	0	0	1	2	1	0	7	0	1
知人に勧められて	2	1	0	1	3	1	0	6	1	0	9	6	1	1	0	2	2	2
過去に参加	1	3	4	3	0	1	2	14	3	1	0	9	2	4	2	10	1	1
問い合わせた	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1
その他	4	7	0	0	0	10	4	54	0	1	2	7	5	4	4	3	2	2
不明・無回答	1	0	0	0	0	2	1	8	1	0	0	0	1	0	1	1	0	1
今日の体験発表会にいらした動機をお聞かせください。（複数回答可）																		
養育家庭になりたいと 思っていたから	0	1	1	0	3	0	0	4	2	0	0	1	1	3	1	3	2	1
養育家庭制度に興 味・関心があったから	13	11	3	7	3	10	1	23	4	4	16	23	6	7	7	12	7	8
子育てに関わる話が 聞けると思ったから	9	2	3	8	0	11	7	28	1	2	3	21	3	8	4	11	7	8
仕事や学問などの参 考にするため	8	8	2	9	2	4	2	56	4	1	2	10	1	6	6	11	3	4
その他	2	5	0	0	2	2	0	18	0	0	0	5	3	0	2	4	0	0
不明・無回答	0	1	0	1	1	3	2	4	0	0	0	0	1	0	0	3	0	1
今日の体験発表会の感想をお聞かせください。																		
とても良かった	13	14	4	10	6	20	10	57	5	2	10	26	10	12	8	24	9	12
良かった	7	8	3	8	1	6	2	38	1	2	7	19	2	5	9	8	2	1
普通	1	1	0	0	1	0	0	5	0	1	1	1	0	0	2	1	0	0
あまり良くなかった	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
良くなかった	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
不明・無回答	2	0	1	1	2	0	0	8	1	2	2	5	1	0	1	5	3	4
感想	10	10	4	9	4	16	5	58	4	4	15	26	5	14	8	19	5	6
アンケート回答	23	23	8	19	10	26	12	109	7	7	20	51	13	17	20	38	14	17
参加者総数	44	47	20	26	26	38	23	148	20	18	21	69	28	29	27	60	41	31

平成20年度養育家庭体験発表会アンケート結果

質問	10/25 清瀬	10/25 稲城	10/28 東村山	10/29 中野	10/31 青梅	10/31 三鷹	10/31 調布	11/5 中央	11/6 豊島	11/7 小平	11/8 江東	11/8 杉並	11/8 品川	11/10 武蔵野	11/11 江戸川	11/13 葛飾	11/14 新宿	11/14 府中
年齢 ～20代	1	1	3	2	0	1	4	1	5	0	1	3	3	3	4	1	4	0
30代	0	2	2	1	1	3	1	3	3	1	0	4	2	2	1	3	0	3
40代	4	1	2	6	3	10	4	4	2	2	2	5	5	8	5	9	4	4
50代	1	7	6	4	9	8	4	5	4	0	2	10	20	2	14	13	11	8
60代～	5	8	6	3	12	3	2	7	14	2	4	6	27	5	32	3	19	29
不明・無回答	0	0	0	0	0	1	0	0	5	0	0	0	0	0	1	0	0	1
性別 男性	3	5	2	2	11	5	2	5	5	1	2	3	10	2	7	7	1	11
女性	8	14	17	14	14	20	12	14	26	4	6	24	47	18	49	21	36	32
不明・無回答	0	0	0	0	0	1	1	1	2	0	1	1	0	0	1	1	1	2
所属 養育家庭	3	2	0	0	3	1	2	0	0	1	2	2	3	3	1	4	0	0
フレットホーム	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
都職員	0	0	0	1	3	2	0	1	1	0	0	1	2	0	3	1	2	0
区市町村職員	1	0	0	1	0	10	2	4	1	2	0	1	4	0	3	0	0	5
民生児童委員	0	7	4	0	14	1	0	2	20	0	1	8	31	0	29	3	26	17
主任児童委員	0	2	2	1	1	0	2	0	1	0	0	6	9	1	7	8	7	1
学生	4	1	2	2	0	0	2	1	2	0	0	2	2	2	7	1	0	0
一般	3	7	8	11	3	5	4	6	4	2	5	7	5	9	4	11	1	14
その他	0	0	3	0	0	3	3	3	3	0	1	1	0	4	2	1	1	6
不明・無回答	0	0	0	0	1	3	0	3	1	0	0	0	1	1	1	0	1	2
どこで、この体験発表会をお知りになりましたか？(複数回答可)																		
区報・市報で	4	6	9	6	9	11	1	7	10	1	1	9	21	6	11	10	5	13
都報で	0	3	1	5	3	3	3	2	4	0	2	5	6	4	4	2	0	4
ポスターで	0	0	0	0	1	1	0	1	1	0	0	0	6	0	1	1	0	1
チラシで	2	1	7	3	3	7	4	3	12	2	0	9	15	4	16	14	2	14
インターネットで	0	1	1	0	0	5	2	0	1	1	3	1	1	0	0	0	2	1
知人に勧められて	2	4	2	0	1	2	1	0	2	0	0	3	4	3	5	1	2	4
過去に参加	0	1	4	3	7	6	3	2	5	1	0	4	8	1	13	2	6	4
問い合わせた	0	0	0	1	0	1	1	1	1	0	0	1	2	0	2	1	5	0
その他	0	1	0	2	8	4	3	7	6	0	3	5	15	3	14	6	16	9
不明・無回答	3	2	0	0	0	0	0	2	2	0	1	0	0	0	1	1	0	2
今日の体験発表会にいらした動機をお聞かせください。(複数回答可)																		
養育家庭になりたいと 思っていたから	0	3	1	5	0	3	0	1	1	1	1	2	4	2	1	5	1	2
養育家庭制度に興 味・関心があったから	2	10	8	9	13	10	6	9	15	4	4	15	25	11	21	18	9	21
子育てに関わる話が 聞けると思ったから	3	8	6	1	7	3	4	4	13	1	4	4	23	4	23	9	13	17
仕事や学問などの参 考にするため	4	4	4	3	5	16	5	3	4	1	2	9	10	4	12	4	12	16
その他	0	0	4	1	5	5	1	3	0	1	0	3	4	1	7	0	3	3
不明・無回答	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	2	3	1	0	1
今日の体験発表会の感想をお聞かせください。																		
とても良かった	8	6	16	9	12	12	9	5	17	5	5	17	39	10	24	19	10	30
良かった	2	10	2	7	8	12	5	11	13	0	2	10	12	7	21	6	24	10
普通	0	1	0	0	2	0	0	1	0	0	0	1	1	0	5	0	1	0
あまり良くなかった	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	1	0
良くなかった	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
不明・無回答	1	2	1	0	3	2	1	3	2	0	2	0	5	3	6	4	2	5
感想	7	9	11	8	14	13	7	9	15	3	7	15	35	9	24	16	12	30
アンケート回答	11	19	19	16	25	26	15	20	33	5	9	28	57	20	57	29	38	45
参加者総数	25	29	32	39	45	41	33	34	89	18	26	52	61	39	80	59	62	61

平成20年度養育家庭体験発表会アンケート結果

質問	11/15 板橋	11/15 大田	11/17 荒川	11/19 あきる野	11/25 八王子	11/28 港	11/28 狛江	11/29 目黒	12/6 世田谷	12/8 練馬	1/26 渋谷	1/26 府中	1/29 小金井	2/5 墨田	2/5 国立	2/19 瑞穂	2/23 福生	3/3 多摩	総計
年齢 ～20代	2	0	1	2	6	3	5	1	1	1	4	3	3	3	2	1	0	2	148
30代	1	3	4	3	8	3	3	4	8	9	3	6	1	2	0	2	1	4	130
40代	1	1	4	3	11	7	4	3	9	7	1	4	4	8	0	0	3	4	223
50代	3	12	5	8	12	5	4	13	17	9	3	8	1	9	3	5	4	5	354
60代～	3	30	0	6	14	10	2	15	17	4	3	6	0	2	1	5	10	11	484
不明・無回答	0	1	1	0	1	2	1	0	1	0	0	2	0	5	0	0	0	0	25
性別 男性	2	8	1	2	8	4	4	3	8	1	3	4	4	9	1	2	3	0	241
女性	8	36	14	18	42	25	15	32	44	29	10	25	5	20	2	9	15	25	1,079
不明・無回答	0	3	1	2	2	1	0	1	1	0	1	0	0	0	3	2	0	1	45
所属 養育家庭	1	3	1	4	5	0	2	2	2	0	0	0	0	2	0	0	0	0	76
フレンドホーム	0	0	0	0	2	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	8
都職員	0	0	0	0	1	0	0	0	1	1	0	0	1	1	0	0	0	3	29
区市町村職員	0	0	9	4	6	0	9	1	2	3	2	9	0	2	0	0	1	0	110
民生児童委員	1	33	0	4	2	13	2	15	19	1	1	6	0	2	0	7	10	1	398
主任児童委員	0	5	1	4	3	2	0	8	12	1	1	1	1	0	0	1	3	0	123
学生	1	0	1	0	3	3	1	1	2	1	2	0	3	1	1	1	0	0	110
一般	6	6	2	3	23	8	2	8	14	18	2	11	0	12	3	4	3	17	353
その他	1	0	1	3	7	1	2	0	0	3	2	2	1	7	2	0	0	4	117
不明・無回答	0	0	1	0	1	3	1	0	1	2	4	0	3	1	0	0	1	1	42
どこで、この体験発表会をお知りになりましたか？(複数回答可)																			0
区報・市報で	4	14	9	7	10	6	6	11	15	7	1	2	0	8	2	8	2	9	382
都報で	4	10	0	1	2	3	0	2	6	3	1	0	0	2	2	1	1	0	130
ポスターで	0	2	0	0	2	4	1	1	6	0	0	2	2	1	0	2	0	0	51
チラシで	3	11	5	5	17	2	3	10	7	6	7	17	2	5	1	1	8	5	334
インターネットで	0	1	0	0	2	2	0	3	6	4	2	0	2	6	0	1	1	1	68
知人に勧められて	0	2	0	1	12	8	4	2	6	2	4	7	0	2	1	1	1	1	128
過去に参加	1	10	0	7	9	1	4	7	5	3	1	1	2	4	0	3	1	1	191
問い合わせた	1	0	0	0	1	1	0	2	0	1	0	1	1	3	0	0	0	0	32
その他	1	10	1	4	7	6	8	7	5	5	1	2	0	4	0	0	4	12	288
不明・無回答	0	0	2	0	2	2	0	0	0	0	1	2	0	0	0	0	0	0	40
今日の体験発表会にいらした動機をお聞かせください。(複数回答可)																			0
養育家庭になりたいと 思っていたから	1	3	0	0	7	6	1	6	3	2	1	2	4	2	1	0	0	0	95
養育家庭制度に興味・ 関心があったから	2	20	4	9	16	13	8	15	29	21	5	15	1	13	3	6	11	11	577
子育てに関わる話が 聞けると思ったから	6	15	1	11	20	9	6	13	16	9	4	14	1	7	2	5	6	11	439
仕事や学問などの参 考にするため	0	7	7	7	17	10	8	5	7	4	7	8	4	8	3	5	2	8	374
その他	1	7	2	6	5	3	2	2	2	2	1	1	0	2	0	0	2	4	126
不明・無回答	0	0	2	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	36
今日の体験発表会の感想をお聞かせください。																			0
とても良かった	6	14	8	17	34	15	12	26	37	15	10	17	6	18	2	10	5	18	775
良かった	3	28	6	3	13	9	4	5	13	13	3	11	2	6	3	2	12	7	434
普通	0	3	1	0	0	2	0	1	0	1	1	1	0	1	1	0	0	0	38
あまり良くなかった	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
良くなかった	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
不明・無回答	1	2	1	2	5	4	3	4	3	1	0	0	1	4	0	1	1	1	114
感想	5	13	5	12	27	18	8	25	25	19	10	13	2	15	2	9	10	21	705
アンケート回答	10	47	16	22	52	30	19	36	53	30	14	29	9	29	6	13	18	26	1,365
参加者総数	14	56	22	41	95	43	27	44	92	60	39	45	29	42	22	22	33	34	2,301

**養育家庭制度は、いろいろな理由で親と一緒に暮らすことのでき
ない子どもたちを養子縁組を目的としないで、家庭に迎え一緒に生
活し、養育していただく里親制度です。**

【ほっとファミリー(養育家庭)を、詳しく知りたい。】

★ 申し込み資格はあるの？

- 都内にお住まいで 25 歳以上 65 歳未満のご夫婦。
※ただし、65 歳以上であっても短期条件付・レスパイト限定付にお申し込みできます。
配偶者がいない場合は、子どもの養育経験又は保育士や看護師の資格があり、かつ、養育の補助ができる 20 歳以上の子又は父母等が同居している方。
- 居室が 2 室 10 畳以上ある。

★ お預かりいただく子どもは？

- 親の離婚、家出、病気、虐待等の理由で、親と一緒に暮らすことができない、おむね 18 歳までの子どもです。

★ お預かりいただく期間は？

- 原則として 1 か月以上です。
- 2 年を超える場合、2 年ごとに子どもを継続して預かるかどうかの意思を確認させていただきます。

★ 養育に係る費用は？

- 日常生活や教育費などの養育費は、児童養護施設等に入所している児童と同等の額が支払われます。
- 養育家庭への手当が支払われます。

★ 養育に必要な支援は？

- 児童相談所が中心となって支援を行います。
- 養育に疲れた場合には、子どもの養育を一時的に休息できます。
- ほっとファミリーどうしが集う相互交流の機会があります。
- 経験豊富なほっとファミリーが電話で相談に応じます。
- 研修などに参加し、養育に必要な知識を学ぶことができます。

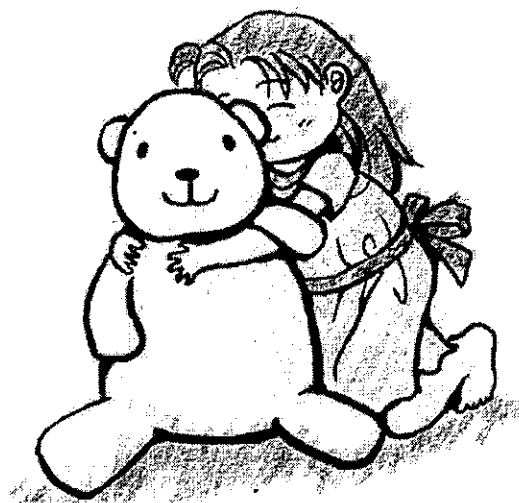
【養育家庭制度に関するお問い合わせ先】

東京都福祉保健局少子社会対策部育成支援課里親担当

〒163-8001 新宿区西新宿二丁目 8 番 1 号

電話 03-5320-4135

<http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/kodomo/satooya/seido/hotfamily/index.html>



こちらのホームページもご覧下さい。

<http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/kodomo/satooya/seido/hotfamily/index.html>

ほっとファミリー

育家庭体験発表集
成21年9月発行

登録番号(21)166

行 東京都福祉保健局 少子社会対策部 育成支援課
東京都新宿区西新宿2-8-1
電話03(5320)4135 FAX03(5388)1406
刷所 東京都大田福祉工場
東京都大田区大森西2-22-26
電話03(3762)7611

石油系溶剤を含まないインキを使用しています。